

アスレティック  
メディカルトレーナー科

午後部

2025 入学

## 授業概要

科目名	JSPO-ATの役割	必修選択の別	選択	開講区分	不定期	担当教員	尾垣 孝博							
サブ科目名		学年	1年	授業形態	講義	総単位数	2 単位	総時間数	30 時間					
学科・専攻	アスレティックメディカルトレーナー科													
【授業を通じての到達目標】														
日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー(以下、AT)資格取得に向けて、ATの歴史や倫理、各競技におけるコンディショニングについてどのように活動されているかを理解できる														
【学習内容】(実務経験のある教員については、どのような実務経験のある教員がどのような授業を実施するのかも記載する)														
アスレティックトレーナーとして10年以上に渡って、スポーツ現場に携わってきた教員が、ATの役割や業務内容について経験談を交えながら実際のスポーツ現場を想像させ、机上の空論となる実践的な授業を展開する														
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】									
日本スポーツ協会専門科目テキスト①アスレティックトレーナーの役割					前日までに該当授業の予習をし、授業後は復習すること									
コマ	授業計画	コマ	授業計画											
1	【授業単元】 オリエンテーション	9	【授業単元】 ATの役割⑤:検査・測定と評価											
	【到達目標】 授業の進め方、授業ルールなどを共有し、評価について理解する		【到達目標】 スポーツ現場における検査・測定と評価について目的や方法を理解できる											
2	【授業単元】 アスレティックトレーナーの歴史・諸外国のトレーナー制度の理解	10	【授業単元】 ATの役割⑥:健康管理と組織運営											
	【到達目標】 アスレティックトレーナーの歴史と諸外国のATについて理解できる		【到達目標】 スポーツ現場における健康管理と組織運営について目的や方法を理解できる											
3	【授業単元】 アスレティックトレーナーの業務	11	【授業単元】 ATの役割⑦:教育的指導											
	【到達目標】 スポーツ現場におけるATの業務を理解できる		【到達目標】 スポーツ現場における教育的指導について目的や方法を理解できる											
4	【授業単元】 アスレティックトレーナーの任務と役割	12	【授業単元】 アスレティックトレーナーの業務①:合宿・遠征・試合											
	【到達目標】 スポーツ現場におけるATの任務と役割が理解できる		【到達目標】 スポーツ現場における合宿・遠征・試合を円滑に運営するための準備や心構えなどを理解できる											
5	【授業単元】 ATの役割①:スポーツ外傷・障害の予防	13	【授業単元】 アスレティックトレーナーの業務②:競技別ATの活動											
	【到達目標】 スポーツ現場におけるスポーツ外傷・障害の予防について目的や方法を理解できる		【到達目標】 各競技におけるATの活動の違いを理解し、それぞれの競技のATの考え方を理解する											
6	【授業単元】 ATの役割②:スポーツ現場における救急処置	14	【授業単元】 期末テスト											
	【到達目標】 スポーツ現場における救急処置について目的や方法を理解できる		【到達目標】 60点満点を取る											
7	【授業単元】 ATの役割③:アスレティックリハビリテーション	15	【授業単元】 振り返り											
	【到達目標】 スポーツ現場におけるコンディショニングについて目的や方法を理解できる		【到達目標】 テストの返却および振り返りとこれまでの学習内容の確認をし、アスレティックトレーナーの役割が身に付いているかを確認する											
8	【授業単元】 ATの役割④:コンディショニング		【成績評価の方法と基準】											
	【到達目標】 スポーツ現場におけるアスレティックリハビリテーションについて目的や方法を理解できる		・授業点:40点満点 出席によって評価、欠席1回につき3点減点、遅刻は1回につき1点減点 ・定期試験:60点満点 14回目の定期試験(筆記)によって評価、授業内の内容で出題 ・合計100点満点											
【履修に当たっての心構え・留意点】														
アスレティックトレーナーの資格取得のために必要不可欠な内容となる														

## 授業概要

科目名	コーチング論	必修選択の別	選択	開講区分	前期	担当教員	干泥 公吉									
サブ科目名		学年	1年	授業形態	講義	総単位数	2 単位	総時間数	30 時間							
学科・専攻	アスレティックメディカルトレーナー科															
【授業を通じての到達目標】																
トレーニングの成果を生み出すための基礎となる科学的知識を習得し活用できる 全身の各筋肉を主働筋としたトレーニング種目名を理解している トレーニングにおける身体反応を踏まえ、その有効性や有用性を科学的に説明できる																
【学習内容】(実務経験のある教員については、どのような実務経験のある教員がどのような授業を実施するのかも記載する) 現役のパーソナルトレーナーとして一般の方からトップアスリートまで広く運動指導を行っている講師が、トレーニングの成果を生み出すための理論についてトレーニングの科学的根拠を基に詳しい講義を実施する。 トレーナーにとって確実な効果を導くための基盤となる内容であるため十分に取り組むことを願う。 座学中心の授業の中で現場での現実的な状況を想定しながら進行する授業である。																
【使用教科書・教材・参考図書】		【授業時間外における学習】														
Teamsにて授業用資料を提示		より高い理解のためにトレーニング学のみならず運動生理学的な内容についても十分な予習を行うことが望ましい。														
コマ	授業計画	コマ	授業計画													
1	【授業単元】 ガイダンス 基本的種目の理解⑩前腕部  【到達目標】 授業の目的的理解と評価基準を理解している 前腕部を主働筋とするトレーニング種目名を理解している	9	【授業単元】 オーバートレーニング  【到達目標】 オーバートレーニングとは何か、その原因や身体反応を知りオーバートレーニングを見抜くための判断指標となる知識を獲得している オーバートレーニングのタイプと特徴を説明できる													
2	【授業単元】 サイズの原理 基本的種目の理解⑪頸部  【到達目標】 サイズの原理とはどういうものか、理解し説明できる 頸部を主働筋とする様々なトレーニング種目名について理解している	10	【授業単元】 サルコペニア(高齢者のトレーニング)  【到達目標】 高齢者に発生しやすいサルコペニアとは何か、詳しい知識を理解している 高齢者の身体的特徴を踏まえた運動指導のための方法を獲得している													
3	【授業単元】 筋線維の特性と筋肥大  【到達目標】 筋線維にはどのようなものがあり、どのような特性を持つのか説明できる 筋肥大のためにはどのようなトレーニングを行うべきかを理解している	11	【授業単元】 高地トレーニング  【到達目標】 高地トレーニングとは何か、その求められた背景や具体的方法、身体反応について詳しく理解している 高地トレーニングによる刺激効果をどのように競技に反映させるか説明できる													
4	【授業単元】 筋力アップトレーニングの考え方  【到達目標】 筋力アップは絶対必要なのか、また、どのようなトレーニングを行うべきか、 さらに筋肥大トレーニングとの違いを理解し説明できる	12	【授業単元】 トレーニングの身体反応①血管  【到達目標】 血管の役割とその働きについて詳しく説明できる トレーニングが及ぼす血管反応について詳しく知り、血管に対する運動効果を深く伝えられる知識を得ている													
5	【授業単元】 パワーアップトレーニングの考え方  【到達目標】 パワーアップのためのトレーニングはどのような内容を行うべきか、 また、前提となる体力的要素を理解し説明できる	13	【授業単元】 トレーニングの身体反応②筋肉と生理活性物質の分泌  【到達目標】 筋肉から分泌される生理活性物質とは何か、また、どのような働きを持つのかを理解している 筋肉の分泌器官としての役割を知り、トレーニングの有効性を深く説明できる													
6	【授業単元】 期分け(ピリオダイゼーション)トレーニング  【到達目標】 トレーニングは、1年を通じて同じ内容で行うべきなのか、 期分け(ピリオダイゼーション)の考え方を理解し、応用できる知識を獲得している	14	【授業単元】 まとめ  【到達目標】 今まで学んだ内容を振り返ることで自己の習得状況を確認するとともに、未習得部分の克服を図り期末テストに備える													
7	【授業単元】 まとめ  【到達目標】 前期前半までの内容を振り返ることで自己の習得状況を確認するとともに、 未習得部分の克服を図り中間テストに備える	15	【授業単元】 期末試験と解説  【到達目標】 理解できていない課題部分の習得状況を明確にし、解説により最終確認を行う													
8	【授業単元】 中間試験と解説  【到達目標】 理解できていない課題部分の習得状況を明確にし、解説により最終確認を行う		【成績評価の方法と基準】 授業点40点(中間試験15点含む)、期末テスト60点の合計100点で判定する。 評価はA~Fの6段階で評価する。 授業点は小テスト(2~3点)を実施し、都度授業の理解度を確認する。 中間試験と期末試験は筆記試験を実施し、専門的知識の習得度を確認する。													
【履修に当たっての心構え・留意点】																
レジュメの完成のみならず、必要と認められる内容については口頭説明であっても積極的にメモをとること。																

## 授業概要

科目名	スポーツ科学(スポーツ科学)	必修選択の別	選択	開講区分	前期	担当教員	後岡直樹、島村侑暉		
サブ科目名		学年	1年	授業形態	演習	総単位数	3 単位	総時間数	45 時間
【授業を通じての到達目標】									
<ul style="list-style-type: none"> <li>・体力・運動能力向上やスポーツ外傷・障害予防の計画と実践に必要なスポーツ科学の応用的知識について説明できる。</li> <li>・スポーツ科学の基礎的・応用的知識を、運動能力向上やスポーツ外傷・障害予防を目的とした動きづくりのためのコンディショニング計画と実践に活用できる。</li> <li>・スポーツ科学の基礎的・応用的知識を、スポーツ現場における健康管理の計画と実践に活用できる。</li> </ul>									
【学習内容】									
<p>スポーツ科学の研究に取り組む非常勤講師・後岡直樹と島村侑暉がアスレティックトレーナーに必要な知識の習得を目指した授業を行う。</p> <p>講師・後岡直樹はNSCA-CSCSとしての幅広い知識とスポーツ科学に関する研究を活かした講義となる。</p> <p>講師・島村侑暉はアスリートとしての実践経験と運動生理学・スポーツ医学・運動栄養学に関する研究を活かした講義となる。□</p>									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
使用教科書: スポーツ科学概論(アスレティックトレーナー専門基礎科目テキスト2) 参考書: パワーズ運動生理学					各単元の予習を行い、わからない専門用語については予め調べ、理解することが望ましい。				
コマ	授業計画	コマ	授業計画						
1	<p>【授業単元】 オリエンテーション</p> <p>【到達目標】 トレーナーを目指すにあたり、スポーツ科学を学ぶことの必要性を理解する。</p>	16-17	<p>【授業単元】 健康管理への具体的実践例②</p> <p>【到達目標】 体力測定の立案とフィードバック、スポーツ外傷・障害予防について理解し、説明することができる。</p>						
2-3	<p>【授業単元】 コンディショニングの基礎</p> <p>【到達目標】 コンディショニングとトレーニング、およびその実践法について理解し、説明することができる。</p>	18	<p>【授業単元】 競技種目別の具体的実践例</p> <p>【到達目標】 競技種目別の具体的なコンディショニング実践例について知る。</p>						
4-5	<p>【授業単元】 トレーニング各論(筋力・パワー)</p> <p>【到達目標】 筋力・パワーを向上させるトレーニング法について理解し、説明することができる。</p>	19-21	<p>【授業単元】 プレゼンテーション大会</p> <p>【到達目標】 スポーツ科学に関する情報を分かりやすく、理論的に説明する力を養う。</p>						
6-7	<p>【授業単元】 トレーニング各論(柔軟性)</p> <p>【到達目標】 柔軟性を向上させるトレーニング法について理解し、説明することができる。</p>	22	<p>【授業単元】 定期テスト対策</p> <p>【到達目標】 理解が不十分な単元を把握し、習熟度を高める。</p>						
8-9	<p>【授業単元】 トレーニング各論(持久力)</p> <p>【到達目標】 持久力を向上させるトレーニング法について理解し、説明することができる。</p>	23	<p>【授業単元】 定期テストと振り返り</p> <p>【到達目標】 理解が不十分な単元を把握し、習熟度を高める。</p>						
10-11	<p>【授業単元】 トレーニング各論(スプリント)</p> <p>【到達目標】 スプリント能力を向上させるトレーニング法について理解し、説明することができる。</p>		<p>【授業単元】</p> <p>【到達目標】</p>						
12-13	<p>【授業単元】 トレーニング各論(アジリティ)</p> <p>【到達目標】 アジリティを向上させるトレーニング法について理解し、説明することができる。</p>		<p>【授業単元】</p> <p>【到達目標】</p>						
14-15	<p>【授業単元】 健康管理への具体的実践例①</p> <p>【到達目標】 身体組成評価と調整、リカバリーについて理解し、説明することができる。</p>		<p>【成績評価の方法と基準】</p> <p>講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、授業評価(平素の学習状況・出席状況など)を40点の配点とし、両者の合計点でA~Fの6段階で評価する。</p> <p>D以上で合格として単位認定する。 70%以上の出席率に満たない場合は定期試験の受験資格を喪失しEとする。</p> <p>定期試験はマーク試験で行う。□</p>						
【履修に当たっての心構え・留意点】									
最新の研究結果を紹介することがあるが、基本的に教科書の内容に準じて学習する。									

## 授業概要

科目名	スポーツ科学(運動生理学)	必修選択の別	選択	開講区分	前期	担当教員	後岡直樹、島村侑暉							
サブ科目名		学年	1年	授業形態	演習	総単位数	6 単位	総時間数	90 時間					
学科・専攻	アスレティックメディカルトレーナー科													
【授業を通じての到達目標】														
体力・運動能力向上やスポーツ外傷・障害予防の計画と実践に必要な運動生理学の各種の基礎知識(筋生理、神経生理、代謝、呼吸・循環、内分泌など)について説明できる。														
【学習内容】														
スポーツ科学の研究に取り組む非常勤講師・後岡直樹と島村侑暉がアスレティックトレーナーに必要な知識の習得を目指した授業を行う。 講師・後岡直樹はNSCA-CSCSとしての幅広い知識とスポーツ科学に関する研究を活かした講義となる。 講師・島村侑暉はアスリートとしての実践経験と運動生理学・スポーツ医学・運動栄養学に関する研究を活かした講義となる。														
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】									
使用教科書: スポーツ科学概論(アスレティックトレーナー専門基礎科目テキスト2) 参考書: 入門運動生理学、運動生理学20講、パワーズ運動生理学					各単元の予習を行い、わからない専門用語については予め調べ、理解することが望ましい。									
コマ	授業計画	コマ	授業計画											
1-3	【授業単元】 オリエンテーション  【到達目標】 トレーナーを目指すにあたり、運動生理学を学ぶことの必要性を理解する。	25-27	【授業単元】 運動制御・学習  【到達目標】 運動制御および運動学習について理解し、説明することができる。											
4-6	【授業単元】 筋生理①  【到達目標】 骨格筋の構造、収縮の仕組み、発揮する張力、分類と機能について理解し、説明することができる。	28-30	【授業単元】 中間確認テスト②  【到達目標】 呼吸・循環、内分泌、運動制御・学習の中で理解の乏しい単元を把握し、習熟度を高める。											
7-9	【授業単元】 筋生理②  【到達目標】 骨格筋の活動様式、筋力とスピードとパワーに影響する要因について理解し、説明することができる。	31-33	【授業単元】 発育発達・加齢  【到達目標】 発育・加齢による身体の変化について理解し、説明することができる。											
10-12	【授業単元】 神経生理  【到達目標】 神経系の構成単位、神経系の構造と機能、大脳皮質の機能局在と体部位局在、身体運動の神経機構について理解し、説明することができる	34-36	【授業単元】 女性(性差)・時間生物学  【到達目標】 女性の身体特性および概日リズム(サークルディアンリズム)について理解し、説明することができる。											
13-15	【授業単元】 代謝  【到達目標】 エネルギー消費、エネルギー供給機構について理解し、説明することができる。	37-39	【授業単元】 環境による生理学的変化  【到達目標】 暑熱環境、寒冷環境、高地環境による生理学的変化について理解し、説明することができる。											
16-18	【授業単元】 中間確認テスト①  【到達目標】 筋生理、神経生理、代謝の中で理解の乏しい単元を把握し、習熟度を高める。	40-42	【授業単元】 定期テスト対策  【到達目標】 理解が不十分な単元を把握し、習熟度を高める。											
19-21	【授業単元】 呼吸・循環  【到達目標】 呼吸システム、循環システムについて理解し、説明することができる。	43-45	【授業単元】 定期テストと振り返り  【到達目標】 理解が不十分な単元を把握し、習熟度を高める。											
22-24	【授業単元】 内分泌  【到達目標】 内分泌系の役割について理解し、説明することができる。		【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、授業評価(平素の学習状況・出席状況などを含む)を40点の配点とし、両者の合計点でA~Fの6段階で評価する。 【授業評価の内訳】:出席状況…20点 中間確認テスト①…10点 中間確認テスト②…10点 D以上で合格として単位認定する。 70%以上の出席率に満たない場合は定期試験の受験資格を喪失しEとする。 中間確認テスト、定期試験はマーク試験で行う。											
【履修に当たっての心構え・留意点】														
最新の研究結果を紹介することがあるが、基本的に教科書の内容に準じて学習する。														

## 授業概要

科目名	スポーツ科学(バイオメカニクス)	必修選択の別	選択	開講区分	前期	担当教員	後岡直樹、島村侑暉							
サブ科目名		学年	1年	授業形態	演習	総単位数	3 単位	総時間数	45 時間					
学科・専攻	アスレティックメディカルトレーナー科													
【授業を通じての到達目標】														
体力・運動能力向上やスポーツ外傷・障害予防の計画と実践に必要なバイオメカニクスの各種の基礎知識(運動と力、運動と力のモーメント、流体力、インパクトと外傷・障害など)について説明できる。														
【学習内容】														
スポーツ科学の研究に取り組む非常勤講師・後岡直樹と島村侑暉がアスレティックトレーナーに必要な知識の習得を目指した授業を行う。 講師・後岡直樹はNSCA-CSCSとしての幅広い知識とスポーツ科学に関する研究を活かした講義となる。 講師・島村侑暉はアスリートとしての実践経験とスポーツ医学に関する研究を活かした講義となる。														
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】									
使用教科書: スポーツ科学概論(アスレティックトレーナー専門基礎科目テキスト2) 参考書: スポーツ・バイオメカニクス20講 スポーツバイオメカニクス入門: 絵で見る講義ノート					各単元の予習を行い、わからない専門用語については予め調べ、理解することが望ましい。									
コマ	授業計画	コマ	授業計画											
1	【授業単元】 オリエンテーション  【到達目標】 トレーナーを目指すにあたり、バイオメカニクスを学ぶことの必要性を理解する。	14-15	【授業単元】 投動作  【到達目標】 投動作について理解し、説明することができる。											
2-3	【授業単元】 身体の力学的特性  【到達目標】 筋骨格系、キネマティクス的表現、身体重心と測定方法について理解し、説明することができる。	16-17	【授業単元】 打動作  【到達目標】 打動作について理解し、説明することができる。											
4-5	【授業単元】 運動と力  【到達目標】 並進運動について理解し、説明することができる。	18-19	【授業単元】 方向転換動作  【到達目標】 方向転換動作について理解し、説明することができる。											
6-7	【授業単元】 運動と力のモーメント  【到達目標】 回転運動について理解し、説明することができる。	20	【授業単元】 あたり動作  【到達目標】 あたり動作について理解し、説明することができる。											
8	【授業単元】 流体力  【到達目標】 空気および水の力について理解し、説明することができる。	21	【授業単元】 測定動作  【到達目標】 測定動作について理解し、説明することができる。											
9	【授業単元】 よい動きのバイオメカニクス的原則  【到達目標】 優れたパフォーマンスを発揮するためのバイオメカニクス的原則について理解し、説明することができる。	22	【授業単元】 泳動作  【到達目標】 泳動作について理解し、説明することができる。											
10-11	【授業単元】 歩・走動作  【到達目標】 歩・走動作について理解し、説明することができる。	23	【授業単元】 定期テストと振り返り  【到達目標】 理解が不十分な単元を把握し、習熟度を高める。											
12-13	【授業単元】 跳動作  【到達目標】 跳動作について理解し、説明することができる。		【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、授業評価(平素の学習状況・出席状況など)を40点の配点とし、両者の合計点でA~Fの6段階で評価する。  D以上で合格として単位認定する。 70%以上の出席率に満たない場合は定期試験の受験資格を喪失しEとする。 定期試験はマーク試験で行う。											
【履修に当たっての心構え・留意点】					最新の研究結果を紹介することがあるが、基本的に教科書の内容に準じて学習する。									

## 授業概要

## 授業概要

科目名	スポーツ社会学	必修選択の別	選択	開講区分	後期	担当教員	干泥公吉		
サブ科目名									
学科・専攻	アスレティックメディカルトレーナー科	学年	1年	授業形態	講義	総単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
日本スポーツ協会公認スポーツ指導員として求められる知識を理解している コーチングの内容を軸に現代における指導者としてのモラルや倫理を獲得する スポーツにおける様々な問題点に目を向け、指導者として今後の国際的な活動を見据えた視野を広げる									
【学習内容】(実務経験のある教員については、どのような実務経験のある教員がどのような授業を実施するのかも記載する) 現役のパーソナルトレーナーとして一般の方からトップアスリートまで広く運動指導を行っている講師が、指導を円滑に行い成果を生み出すためのコーチングについて詳しい講義を実施する。 コーチングは、現代の大きく変化する運動指導の現場において必須内容であると考えられるため、十分に取り組むことを願う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
Teamsにて提示					より高い理解につなげるために資料の内容に目を通し、十分な予習を行うことが望ましい。				
コマ	授業計画	コマ	授業計画						
1	【授業単元】 ガイダンス、パラスポーツと問題点  【到達目標】 授業の目的の理解と評価基準を理解している パラスポーツの様々な問題点を知り、より良い状態にするための指導者の視点を獲得する	9	【授業単元】 スポーツと教育  【到達目標】 スポーツと体育の関係性、学校の課外活動におけるスポーツのあり方等を国内外の事例から検討する。						
2	【授業単元】 パラスポーツとドーピング  【到達目標】 パラスポーツにおけるドーピングの事例や現状を確認し、治療のための使用と治療使用特例(TUE)について理解する	10	【授業単元】 スポーツと地域社会  【到達目標】 地域におけるスポーツのあり方を、社会学的観点から理解する。						
3	【授業単元】 パラスポーツと共生社会  【到達目標】 パラスポーツとは何か、その歴史と魅力を知るとともに実施により次世代に受け継がれるレガシーを理解する	11	【授業単元】 スポーツ政策とスポーツ振興  【到達目標】 我が国のスポーツ政策とスポーツ振興に関する問題を、諸外国の事例と比較して検討する。						
4	【授業単元】 地球温暖化とスポーツ  【到達目標】 地球温暖化による環境問題が、どのようにスポーツに影響を与えてくるのか、指導者として考えを及ぼし具体的行動や対策を周知する	12	【授業単元】 日本社会とスポーツ  【到達目標】 日本社会におけるスポーツ文化の発展形態や、その特色について考える。						
5	【授業単元】 スポーツと人種差別  【到達目標】 スポーツにおける人種差別の歴史を理解するとともに、今後の指導活動において公平・公正な判断ができる能力の基礎となる考え方を獲得する	13	【授業単元】 スポーツ社会学研究の国際比較  【到達目標】 スポーツ社会学研究の国際的な傾向や方法論について考える。						
6	【授業単元】 オリンピックと環境問題  【到達目標】 スポーツの一大イベントであるオリンピック開催のメリット、デメリットを検討し、今後の開催が果たして有用なのかグローバルな視野を育む	14	【授業単元】 まとめ  【到達目標】 内容を振り返ることで自己の習得状況を確認するとともに、未習得部分の克服を図り試験に備える						
7	【授業単元】 スポーツとジェンダー  【到達目標】 スポーツにおけるジェンダーバイアスの生成に関して、国内外の事例から考える。	15	【授業単元】 試験と解説  【到達目標】 理解できていない課題部分の習得状況を明確にし、解説により最終確認を行う						
8	【授業単元】 スポーツと政治・権力  【到達目標】 スポーツと政治の関わり合いに関して、歴史社会学的な研究経緯を示した上で現代的問題に関して理解する。		【成績評価の方法と基準】 授業点40点(中間試験15点含む)、期末テスト60点の合計100点で判定する。 評価はA~Fの6段階で評価する。 授業点は小テスト(1回~6回各5点、7回10点)を実施し、都度授業の理解度を確認する。 最終試験は筆記試験を実施し、専門的知識の習得度を確認する。						
【履修に当たっての心構え・留意点】									
レジュメの完成のみならず、必要と認められる内容については口頭説明であっても積極的にメモをとること。									

# 授業概要

科目名	トレーニング論	必修選択の別	選択	開講区分	前期	担当教員	土黒 秀則										
サブ科目名		学年	1年	授業形態	演習	総単位数	2 単位	総時間数	30 時間								
学科・専攻	アスレティックメディカルトレーナー科																
【授業を通じての到達目標】																	
トレーニングの成果を生み出すための基礎となる科学的知識を習得し活用できる 全身の各筋肉を主働筋としたトレーニング種目名を理解している 様々なトレーニング種目の運動ポイントや注意点、呼吸方法などを踏まえ説明できる																	
【学習内容】(実務経験のある教員については、どのような実務経験のある教員がどのような授業を実施するのかも記載する) 現役のパーソナルトレーナーとして一般の方からトップアスリートまで広く運動指導を行っている講師が、トレーニングの成果を生み出すための理論についてトレーニングの科学的根拠を基に詳しい講義を実施する。 トレーナーにとって確実な効果を導くための基盤となる内容であるため十分に取り組むことを願う。 座学中心の授業の中で現場での現実的な状況を想定しながら進行する授業である。																	
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】												
Teamsにて提示					より高い理解のためにトレーニング学のみならず運動生理学的な内容についても十分な予習を行うことが望ましい。												
コマ	授業計画	コマ	授業計画														
1	【授業単元】 ガイダンス  【到達目標】 授業の目的的理解と評価基準を理解している トレーニングの成果を生み出すために必要な3大要素を理解し説明できる	9	【授業単元】 筋収縮様式 基本的種目の理解④上腕二頭筋  【到達目標】 筋収縮様式を理解し具体的に説明できる 上半身の小筋群である上腕二頭筋を主働筋とするトレーニング種目名を理解している														
2	【授業単元】 トレーニング基礎用語  【到達目標】 ウェイトトレーニングにおいて用いられる基本的な専門用語を説明できる	10	【授業単元】 筋肉痛と超回復 基本的種目の理解⑤上腕三頭筋  【到達目標】 筋肉痛の種類や超回復について理解し、説明できる 上半身の小筋群である上腕三頭筋を主働筋とするトレーニング種目名を理解している														
3	【授業単元】 トレーニング方法と筋肉名  【到達目標】 トレーニングの柱となるウェイトトレーニングと有酸素トレーニングの方法を理解するとともに主な上半身の骨格筋について理解し説明できる	11	【授業単元】 %1RM法 基本的種目の理解⑥大殿筋、大腿四頭筋、内転筋、外転筋  【到達目標】 %1RM法を理解し指導に直接的に反映できる能力を習得している 下半身の大筋群である大殿筋や大腿四頭筋、内転筋、外転筋が主働筋となるトレーニング種目名を理解している														
4	【授業単元】 フリーウエイトとマシンの違い 基本的種目の理解①大胸筋  【到達目標】 マシンとフリーウエイトの違いを理解し、活用方法を知っている 上半身の大筋群である大胸筋を主働筋とするトレーニング種目名を理解している	12	【授業単元】 分割法 基本的種目の理解⑦下腿部、ハムストリングス  【到達目標】 分割法を理解し、効率的な指導方法のための知識を習得している 下腿部、ハムストリングスを主働筋とするトレーニング種目名を理解している														
5	【授業単元】 トレーニングの原理原則 基本的種目の理解②広背筋  【到達目標】 トレーニングの原理原則を知り、効果を生み出す知識を獲得する 上半身の大筋群である広背筋を主働筋とするトレーニング種目名を理解している	13	【授業単元】 有酸素運動  【到達目標】 有酸素運動の指導のための運動方法の選択や強度の設定の知識を獲得している														
6	【授業単元】 セットの考え方 基本的種目の理解③三角筋  【到達目標】 セットの種類、セットの展開方法の知識を獲得している 上半身の小筋群である三角筋を主働筋とするトレーニング種目名を理解している	14	【授業単元】 まとめ  【到達目標】 今まで学んだ内容を振り返ることで自己の習得状況を確認するとともに、未習得部分の克服を図り期末テストに備える														
7	【授業単元】 まとめ  【到達目標】 前期前半までの内容を振り返ることで自己の習得状況を確認するとともに、未習得部分の克服を図り中間テストに備える	15	【授業単元】 期末試験と解説  【到達目標】 理解できていない課題部分の習得状況を明確にし、解説により最終確認を行う														
8	【授業単元】 中間試験と解説  【到達目標】 理解できていない課題部分の習得状況を明確にし、解説により最終確認を行う		【成績評価の方法と基準】  授業点40点(中間試験15点含む)、期末テスト60点の合計100点で判定する。 評価はA～Fの6段階で評価する。 授業点は小テスト(2～3点)を実施し、都度授業の理解度を確認する。 中間試験と期末試験は筆記試験を実施し、専門的知識の習得度を確認する。														
【履修に当たっての心構え・留意点】					レジュメの完成のみならず、必要と認められる内容については口頭説明であっても積極的にメモをとること。												

## 授業概要

科目名	トレーニング実技とコーチング	必修 選択の別	選択	開講 区分	後期	担当 教員	干泥 公吉		
サブ科目名		学年	1年	授業 形態	演習	総単位数	2 単位	総時間数	30 時間
学科・専攻	アスレティックメディカルトレーナー科								
【授業を通じての到達目標】									
実施する様々なトレーニング種目の特性や運動ポイント、注意点、呼吸方法などを踏まえた説明ができる 実技におけるフォームを確認し、実施者の問題点を見抜きフィードバックができる 問題点に対し適切な修正方法を用いて改善に導くことができる									
【学習内容】(実務経験のある教員については、どのような実務経験のある教員がどのような授業を実施するのかも記載する) 現役のパーソナルトレーナーとして一般の方からトップアスリートまで広く運動指導を行っている講師が、トレーニングの成果を生み出すための理論についてトレーニングの科学的根拠に基いた議義を実施する。 トレーナーにとって確実な効果を導くための基盤となる内容であるため十分に取り組むことを願う。 座学中心の授業の中で現場での現実的な状況を想定しながら進行する授業である。									
【使用教科書・教材・参考図書】 Teams上で授業用資料を提示				【授業時間外における学習】 より高い理解のためにトレーニング種目の特性や運動方法、呼吸方法、注意点などについて十分な予習を行うことが望ましい。					
コマ	授業計画	コマ	授業計画						
1	【授業単元】 ガイダンス  【到達目標】 授業の目的の理解と評価基準を理解している トレーニングの成果を生み出すために必要な3大要素を理解し説明できる	9	【授業単元】 ブッシュアップの科学  【到達目標】 上半身のブッシュ系多関節運動であるブッシュアップにおける問題点の発見・抽出とフィードバックが出来るとともに、修正方法を理解し活用することで正しいフォームに導くことができる						
2	【授業単元】 スクワットの科学  【到達目標】 下半身の基本種目であるスクワットにおける問題点の発見・抽出とフィードバックが出来るとともに、修正方法を理解し活用することで正しいフォームに導くことができる	10	【授業単元】 ペントオーバーロウの科学  【到達目標】 上半身のブル系多関節運動であるペントオーバーロウにおける問題点の発見・抽出とフィードバックが出来るとともに、修正方法を理解し活用することで正しいフォームに導くことができる						
3	【授業単元】 デッドリフトの科学  【到達目標】 下半身の基本種目であるデッドリフトにおける問題点の発見・抽出とフィードバックが出来るとともに、修正方法を理解し活用することで正しいフォームに導くことができる	11	【授業単元】 ショルダープレスの科学  【到達目標】 肩部のプレス系多関節運動であるバーベルショルダープレスにおける問題点の発見・抽出とフィードバックが出来るとともに、修正方法を理解し活用することで正しいフォームに導くことができる						
4	【授業単元】 フロントランジの科学  【到達目標】 下半身の片側性運動種目であるフロントランジにおける問題点の発見・抽出とフィードバックが出来るとともに、修正方法を理解し活用することで正しいフォームに導くことができる	12	【授業単元】 アップライトロウの科学  【到達目標】 肩部のロウイング系多関節運動であるアップライトロウにおける問題点の発見・抽出とフィードバックが出来るとともに、修正方法を理解し活用することで正しいフォームに導くことができる						
5	【授業単元】 サイドランジの科学  【到達目標】 下半身の片側性運動種目であるサイドランジにおける問題点の発見・抽出とフィードバックが出来るとともに、修正方法を理解し活用することで正しいフォームに導くことができる	13	【授業単元】 アームカールの科学  【到達目標】 上腕部前面の単関節運動であるアームカールにおける問題点の発見・抽出とフィードバックが出来るとともに、修正方法を理解し活用することで正しいフォームに導くことができる						
6	【授業単元】 クランチの科学  【到達目標】 体幹部の強化種目であるクランチにおける問題点の発見・抽出とフィードバックが出来るとともに、修正方法を理解し活用することで正しいフォームに導くことができる	14	【授業単元】 まとめ  【到達目標】 今まで学んだ内容を振り返ることで自己の習得状況を確認するとともに、未習得部分の克服を図り期末テストに備える						
7	【授業単元】 まとめ  【到達目標】 前期前半までの内容を振り返ることで自己の習得状況を確認するとともに、未習得部分の克服を図り中間テストに備える	15	【授業単元】 期末試験と解説  【到達目標】 理解できていない課題部分の習得状況を明確にし、解説により最終確認を行う						
8	【授業単元】 中間試験と解説  【到達目標】 理解できていない課題部分の習得状況を明確にし、解説により最終確認を行う		【成績評価の方法と基準】 授業点40点(中間試験15点含む)、期末テスト60点の合計100点で判定する。 評価はA~Fの6段階で評価する。 授業点は小テスト(2~3点)を実施し、都度授業の理解度を確認する。 中間試験と期末試験は筆記試験を実施し、専門的知識の習得度を確認する。						
【履修に当たっての心構え・留意点】 レジュメの完成のみならず、必要と認められる内容については口頭説明であっても積極的にメモをとること。									

## 授業概要

科目名	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防	必修選択の別	選択	開講区分	後期	担当教員	伊藤 彰		
サブ科目名		学年	1年	授業形態	講義	総単位数	6 単位	総時間数	90 時間
【授業を通じての到達目標】									
安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防の目的や意義およびJSPO-ATとして果たすべき役割について理解する。スポーツ外傷・障害の予防の概念や発生要因について、科学的根拠に基づいたスポーツ外傷・障害の予防を計画し実践できる。安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害予防に関する対象者の基本データを収集する目的や意義、医・科学スタッフとの連携、更には各種データの活用法について、安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害予防を検討する際の根拠となる各種評価を組織的に計画し実践できる。安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害へ影響を及ぼしうる各種要因を、科学的根拠に基づいた予防対応を計画し実践できる。									
【学習内容】(実務経験のある教員については、どのような実務経験のある教員がどのような授業を実施するのかも記載する)									
本科目では、JSPO-ATの役割における安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防の位置づけをたうえで、科学的根拠に基づいた予防対応を組織的に計画し実践するために必要な知識、態度や技能を習得することをねらいとする。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
専門科目テキスト、共通科目リファレンスブック、各種参考資料、人体骨格模型、各種テーピングテープおよび関連備品(テーピングシザース、スプレーなど)各種装具・防具(プレース、ヘルメットなど)、「動作の見方」を学習するにあたって必要な用品、施設					小テストの復習				
コマ	授業計画	コマ	授業計画						
1	【授業単元】 スポーツ現場における安全健康管理およびスポーツ外傷・障害予防の概念  【到達目標】 スポーツ現場における安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害予防の意義について理解する	9	【授業単元】 スポーツ外傷・障害の予防:足関節・足部①  【到達目標】 内がえし捻挫、外がえし捻挫、扁平足障害、疲労骨折について、その概要を理解する						
2	【授業単元】 スポーツ現場におけるスポーツ外傷・障害・事故・疾病の実態  【到達目標】 重篤なスポーツ外傷・障害・事故の実態、運動器のスポーツ外傷・障害の実態やスポーツに関連する内科的疾患の実態について理解する	10	【授業単元】 スポーツ外傷・障害の予防:足関節・足部②  【到達目標】 過剝骨・種子骨障害、衝突性外骨、足関節・足部捻挫のその他の外傷・障害について、その概要を理解する						
3	【授業単元】 安全・健康管理に影響を及ぼす各種要因  【到達目標】 環境的要因や生活習慣要因が安全・健康管理に及ぼす影響や用具・防具・施設・設備が安全・健康管理に及ぼす影響について理解する	11	【授業単元】 テーピングについて①  【到達目標】 テーピングの目的や効果、有効性、基本的注意点、テーピングの持ち方、切り貼りを理解する						
4	【授業単元】 安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害予防におけるJSPO-ATの役割①  【到達目標】 安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害予防を実施するにあたり把握すべき主な情報について理解する	12	【授業単元】 足関節捻挫に対するテーピング①  【到達目標】 テーピングの種類と特性を理解する						
5	【授業単元】 安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害予防におけるJSPO-ATの役割②  【到達目標】 安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害予防を実施するにあたり把握すべき競技・種目特性について理解する	13	【授業単元】 足関節捻挫に対するテーピング②  【到達目標】 テーピングの種類と特性を理解する						
6	【授業単元】 安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害予防におけるJSPO-ATの役割③  【到達目標】 重大事故発生に備えた対応について理解する	14	【授業単元】 足関節捻挫に対するテーピング③  【到達目標】 テーピングの種類と特性を理解する						
7	【授業単元】 スポーツ外傷・障害予防の考え方と疫学調査、予防プログラムの立案と介入  【到達目標】 スポーツ外傷・障害予防の考え方と疫学調査について理解する	15	【授業単元】 スポーツ外傷・障害の予防:下腿部  【到達目標】 腓腹筋肉離れ、アキレス腱断裂、脛骨過労性骨障害、下腿疲労骨折、コンパートメント症候群について、その概要を理解する						
8	【授業単元】 小テスト  【到達目標】 第1回～8回までの授業内容の理解およびテキスト該当部分の理解		【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期試験を60点、授業評価(平素の学習状況・出席状況など)を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。  試験は筆記試験で行う。						
【履修に当たっての心構え・留意点】									
特になし									

## 授業概要

科目名	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防	必修選択の別	選択	開講区分	後期	担当教員	伊藤 彰							
サブ科目名		学年	1年	授業形態	講義	総単位数	6 単位	総時間数	90 時間					
学科・専攻	アスレティックメディカルトレーナー科													
<b>【授業を通じての到達目標】</b>														
安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防の目的や意義およびJSPO-ATとして果たすべき役割について理解する。スポーツ外傷・障害の予防の概念や発生要因について、科学的根拠に基づいたスポーツ外傷・障害の予防を計画し実践できる。安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害予防に関する対象者の基本データを収集する目的や意義、医・科学スタッフとの連携、更には各種データの活用法について、安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害予防を検討する際の根拠となる各種評価を組織的に計画し実践できる。安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害へ影響を及ぼしうる各種要因を、科学的根拠に基づいた予防対応を計画し実践できる。														
<b>【学習内容】(実務経験のある教員については、どのような実務経験のある教員がどのような授業を実施するのかも記載する)</b>														
本科目では、JSPO-ATの役割における安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防の位置づけをたうえで、科学的根拠に基づいた予防対応を組織的に計画し実践するために必要な知識、態度や技能を習得することをねらいとする。														
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>					<b>【授業時間外における学習】</b>									
専門科目テキスト、共通科目リファレンスブック、各種参考資料、人体骨格模型、各種テーピングテープおよび関連備品(テーピングシザース、スプレーなど)各種装具・防具(プレース、ヘルメットなど)、「動作の見方」を学習するにあたって必要な用品、施設					小テストの復習									
コマ	授業計画	コマ	授業計画											
16	【授業単元】 スポーツ外傷・障害の予防:膝関節①	24	【授業単元】 スポーツ外傷・障害の予防:腰部・背部・骨盤②											
	【到達目標】 膝前十字靱帯損傷、膝後十字靱帯損傷、膝内側側副靱帯損傷、膝半月板損傷、膝軟骨損傷について、その概要を理解する		【到達目標】 鼠径部痛症候群、骨盤・股関節のその他の外傷について、その概要を理解する											
17	【授業単元】 スポーツ外傷・障害の予防:膝関節②	25	【授業単元】 スポーツ外傷・障害の予防:肩関節①											
	【到達目標】 反復性膝関節脱臼、膝蓋腱炎、オズグッド、有痛性分離膝蓋骨、腸脛靱帯炎、驚足炎、離断性骨軟骨炎、内側棚障害について、その概要を理解する		【到達目標】 肩関節前方脱臼、肩腱板損傷、肩鎖関節脱臼について、その概要を理解する											
18	【授業単元】 膝関節内側側副靱帯損傷、膝関節前十字靱帯損傷に対するテーピング	26	【授業単元】 肩鎖関節捻挫、肩関節前方脱臼に対するテーピング											
	【到達目標】 テーピングの種類と特性を理解する		【到達目標】 テーピングの種類と特性を理解する											
19	【授業単元】 スポーツ外傷・障害の予防:大腿部	27	【授業単元】 スポーツ外傷・障害の予防:肩関節②											
	【到達目標】 大腿四頭筋肉離れ、ハムストリングス肉離れ、大腿部打撲、大腿部のその他の外傷・障害について、その概要を理解する		【到達目標】 投球障害肩、肩のその他の外傷・障害について、その概要を理解する											
20	【授業単元】 大腿部打撲、大腿部肉離れに対するテーピング	28	【授業単元】 スポーツ外傷・障害の予防:肘関節①											
	【到達目標】 テーピングの種類と特性を理解する		【到達目標】 肘関節内側側副靱帯損傷、上腕骨外側・内側上顆炎、肘のその他の外傷・障害について、その概要を理解する											
21	【授業単元】 足関節捻挫に対するテーピング実技テスト	29	【授業単元】 肘関節内側側副靱帯損傷、肘関節過伸展制限に対するテーピング											
	【到達目標】 足関節捻挫に対するテーピングを正確に素早く行うことができる		【到達目標】 テーピングの種類と特性を理解する											
22	【授業単元】 スポーツ外傷・障害の予防:頸部	30	【授業単元】 スポーツ外傷・障害の予防:手関節・手部											
	【到達目標】 頸椎捻挫、バーナー症候群、頸椎椎間板ヘルニア、頸部のその他の外傷・障害について、その概要を理解する		【到達目標】 手関節捻挫、TFCC損傷、手指捻挫、手・手指のその他の外傷・障害について、その概要を理解する											
23	【授業単元】 スポーツ外傷・障害の予防:腰部・背部・骨盤①		<b>【成績評価の方法と基準】</b>											
	【到達目標】 腰椎椎間板ヘルニア、腰椎分離症について、その概要を理解する		講義全体を100点満点とし、定期試験を60点、授業評価(平素の学習状況・出席状況など)を40点の配点とし、両者の合計点でA~Fの6段階で評価する。											
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>					試験は筆記試験で行う。									
特になし														

## 授業概要

#### 【授業を通じての到達目標】

安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防の目的や意義およびJSPO-ATとして果たすべき役割について理解する。スポーツ外傷・障害の予防の概念や発生要因について、科学的根拠に基づいたスポーツ外傷・障害の予防を計画し実践できる。安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害予防に関する対象者の基本データを収集する目的や意義、医・科学スタッフとの連携、更には各種データの活用法について、安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害予防を検討する際の根拠となる各種評価を組織的に計画し実践できる。安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害へ影響を及ぼしうる各種要因を、科学的根拠に基づいた予防対応を計画し実践できる。

【学習内容】(実務経験のある教員については、どのような実務経験のある教員がどのような授業を実施するのかも記載する)

本科目では、JSPO-AT の役割における安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防の位置づけをたうえで、科学的根拠に基づいた予防対応を組織的に計画し実践するために必要な知識、態度や技能を習得することをねらいとする。

【使用教科書・教材・参考図書】		【授業時間外における学習】	
専門科目テキスト、共通科目リファレンスブック、各種参考資料、人体骨格模型、各種テーピングテープおよび関連備品(テーピングシザース、スプレーなど)各種装具・防具(ブレース、ヘルメットなど)、「動作の見方」を学習するにあたって必要な用品、施設		小テストの復習	
コマ	授業計画	コマ	授業計画
31	<p>【授業単元】 テーピング実技試験①</p> <p>【到達目標】 テーピングを正確に素早く行うことができる</p>	39	<p>【授業単元】 感染症に対する対応策:ウイルス性結膜炎、海外遠征時に注意すべき感染症</p> <p>【到達目標】 ウイルス性結膜炎、海外遠征時に注意すべき感染症について理解する</p>
32	<p>【授業単元】 テーピング実技試験②</p> <p>【到達目標】 テーピングを正確に素早く行うことができる</p>	40	<p>【授業単元】 感染症に対する対応策:各競技別ルールにみられる感染症対策</p> <p>【到達目標】 各競技別ルールにみられる感染症対策について理解する</p>
33	<p>【授業単元】 アスリートにみられる内臓器官などの疾患:循環器系疾患、呼吸器系疾患</p> <p>【到達目標】 循環器系疾患、呼吸器系疾患について理解する</p>	41	<p>【授業単元】 アスリートにみられる病的現象など:オーバートレーニング症候群</p> <p>【到達目標】 オーバートレーニング症候群、突然死、過換気症候群、摂食障害、減量による障害について理解する</p>
34	<p>【授業単元】 アスリートにみられる内臓器官などの疾患:消化器系疾患、血液疾患</p> <p>【到達目標】 消化器系疾患、血液疾患について理解する</p>	42	<p>【授業単元】 特殊環境のスポーツ医学:高所および低酸素環境下での身体への影響</p> <p>【到達目標】 高所および低酸素環境下、高圧環境、暑熱環境、低温環境、時差等での身体への影響について理解する</p>
35	<p>【授業単元】 アスリートにみられる内臓器官などの疾患:腎・泌尿器疾患</p> <p>【到達目標】 腎・泌尿器疾患について理解する</p>	43	<p>【授業単元】 メディカルチェック</p> <p>【到達目標】 メディカルチェックについて理解する</p>
36	<p>【授業単元】 アスリートにみられる内臓器官などの疾患:代謝性疾患、皮膚疾患</p> <p>【到達目標】 代謝性疾患、皮膚疾患について理解する</p>	44	<p>【授業単元】 まとめ</p> <p>【到達目標】 専門テキストの内容を理解する</p>
37	<p>【授業単元】 感染症に対する対応策:呼吸器感染症</p> <p>【到達目標】 呼吸器感染症について理解する</p>	45	<p>【授業単元】 定期試験</p> <p>【到達目標】 定期試験の振り返りをし、間違えた箇所・理解できなかった箇所を理解するため再度学習する</p>
38	<p>【授業単元】 感染症に対する対応策:血液感染症、皮膚感染症</p> <p>【到達目標】 血液感染症、皮膚感染症について理解する</p>	<p>【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期試験を60点、授業評価(平素の学習状況・出席状況などを40点の配点とし、両者の合計点でA~Fの6段階で評価する。 試験は筆記試験で行う。</p>	
【履修に当たっての心構え・留意点】			
特になし			

## 授業概要

## 授業概要

科目名	救急対応	必修選択の別	選択	開講区分	通年(前期)	担当教員	加藤 英樹							
サブ科目名		学年	1年	授業形態	演習	総単位数	2 単位	総時間数	30 時間					
学科・専攻	スポーツトレーナー科													
【授業を通じての到達目標】														
①スポーツ現場における救急対応の重要性や体制構築について説明できる。 ②救急対応を実施する際に必要な正しい知識と倫理、法的留意点について説明できる。 ③緊急度・重症度を判断するための的確な初期対応を理解し、実践できる。 ④スポーツ現場で発生する外傷・障害に対する具体的な救急対応の方法や留意事項を理解し、実践できる。														
【学習内容】(実務経験のある教員については、どのような実務経験のある教員がどのような授業を実施するのかも記載する)														
<b>アスレティックトレーナーとして10年以上に渡って、スポーツ現場に携わってきた教員が、選手生命と人命の大切さを学生一人ひとりに考えさせ、スポーツ現場における救急処置の重要性を講義と演習で身に付けていく授業</b>														
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】									
日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト5巻 救急対応					前日までに該当授業の予習をし、授業後は復習すること									
コマ	授業計画	コマ	授業計画											
1	【授業単元】 オリエンテーション	9	【授業単元】 内科的疾患に対する救急対応(熱中症)											
	【到達目標】 授業の進め方、授業ルールなどを共有し、評価について理解する		【到達目標】 熱中症の分類、熱中症の評価と対処について理解する											
2	【授業単元】 スポーツ現場と救急対応	10	【授業単元】 内科的疾患に対する救急対応(心停止)-成人対象											
	【到達目標】 スポーツ現場における救急対応の実際と JSPO-AT の役割における救急対応の必要性、目的、範囲が説明できる。また、JSPO-AT の役割における救急対応の法的留意点について説明できる。		【到達目標】 成人を対象とした心肺蘇生法の基礎とAEDの使い方、AEDを効果的に使用するための注意事項を理解する。											
3	【授業単元】 スポーツ現場における救急対応の考え方	11	【授業単元】 内科的疾患に対する救急対応(心停止)-小児対象											
	【到達目標】 救急対応を実施する際に必要な正しい知識と倫理、基本的な留意点について説明できる。スポーツ活動現場における救急対応の特性と意義について説明でき、緊急時対応計画(EAP)の重要性について理解する		【到達目標】 小児を対象とした心肺蘇生法の基礎とAEDの使い方、AEDを効果的に使用するための注意事項を理解する。											
4	【授業単元】 スポーツ現場における救急体制構築	12	【授業単元】 内科的疾患に対する救急対応(心停止)-体位変換と移動、複数傷病者の対応											
	【到達目標】 スポーツ活動現場における救急体制構築の意義と JSPO-AT の役割が説明できる。緊急時対応計画(EAP)の立案に必要な要素、具体的な立案方法について理解する		【到達目標】 傷病者の状況に応じて必要な体位変換や移動方法、リスクマネジメントについて理解する											
5	【授業単元】 スポーツ現場における救急体制計画	13	【授業単元】 外傷時の救急対応(創傷・出血)											
	【到達目標】 緊急時対応計画(EAP)が計画し、事故発生時の救急対応に備え、事前の確認事項や救急・医療資格者への引継ぎ・連携などの留意点について理解する		【到達目標】 各創傷の状態が理解でき、その状態に合わせた適切な止血法を実践できる											
6	【授業単元】 事故発生時の一連の初期評価の手順	14	【授業単元】 期末テスト(実技)											
	【到達目標】 事故発生時の一連の初期評価の手順を理解する		【到達目標】 40点満点を取る											
7	【授業単元】 緊急事態発生時の判断と対応	15	【授業単元】 期末テスト(筆記)											
	【到達目標】 JSPO-AT の役割において、緊急性を判断するための的確な方法を活用し、実践できるようになる。また、重傷度に応じた体位管理・保温・運搬が実践できるようになる		【到達目標】 60点満点を取る											
8	【授業単元】 内科的疾患に対する救急対応(熱中症)		【成績評価の方法と基準】											
	【到達目標】 熱中症の分類、熱中症の評価と対処について理解する		・授業点: 40点満点 ・定期試験: 60点満点 ・合計100点満点											
【履修に当たっての心構え・留意点】														
アスレティックトレーナーの資格取得のために必要不可欠な内容となる														

## 授業概要

科目名	救急対応	必修選択の別	選択	開講区分	通年(後期)	担当教員	加藤 英樹										
サブ科目名		学年	1年	授業形態	演習	総単位数	2 単位	総時間数	30 時間								
学科・専攻	スポーツトレーナー科																
【授業を通じての到達目標】																	
①スポーツ現場における救急対応の重要性や体制構築について説明できる。 ②救急対応を実施する際に必要な正しい知識と倫理、法的留意点について説明できる。 ③緊急度・重症度を判断するため的確な初期対応を理解し、実践できる。 ④スポーツ現場で発生する外傷・障害に対する具体的な救急対応の方法や留意事項を理解し、実践できる。																	
【学習内容】(実務経験のある教員については、どのような実務経験のある教員がどのような授業を実施するかも記載する)																	
アスレティックトレーナーとして10年以上に渡って、スポーツ現場に携わってきた教員が、選手生命と人命の大切さを学生一人ひとりに考えさせ、スポーツ現場における救急処置の重要性を講義と演習で身に付けていく授業																	
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】												
日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト5巻 救急対応					前日までに該当授業の予習をし、授業後は復習をすること												
コマ	授業計画	コマ	授業計画														
1	【授業単元】 外傷時の救急対応(打撲・捻挫・肉ばなれ)  【到達目標】 RICE処置及びRICE処置の手順について実践できる	9	【授業単元】 シミュレーションワーク②  【到達目標】 屋外スポーツにおける心停止を想定したシミュレーションワークを通じ、手順の流れを判断していく														
2	【授業単元】 外傷時の救急対応(骨折)  【到達目標】 骨折時の救急対応と処置について理解する	10	【授業単元】 シミュレーションワーク③  【到達目標】 屋内スポーツにおける肩脱臼を想定したシミュレーションワークを通じ、手順の流れを判断していく														
3	【授業単元】 外傷時の救急対応(脱臼)  【到達目標】 脱臼時の救急対応と処置について理解する	11	【授業単元】 シミュレーションワーク④  【到達目標】 コンタクトスポーツにおける脳震盪を想定したシミュレーションワークを通じ、手順の流れを判断していく														
4	【授業単元】 外傷時の救急対応(脳震盪)  【到達目標】 スポーツにおける脳震盪評価ツールSCATの内容について理解する	12	【授業単元】 シミュレーションワーク⑤  【到達目標】 コンタクトスポーツにおける足間接捻挫を想定したシミュレーションワークを通じ、手順の流れを判断していく														
5	【授業単元】 頭頸部・脊椎外傷の対応①  【到達目標】 頭頸部外傷の救急対応の準備、重症外傷が疑われる場合の初期対応について理解する	13	【授業単元】 前期・後期内容振り返り  【到達目標】 前期・後期の振り返りを行い、ポイントの再確認を行う														
6	【授業単元】 頭頸部・脊椎外傷の対応②  【到達目標】 現場における救急対応の実際、用手頭頸部固定、初期評価について理解する	14	【授業単元】 期末テスト(実技)  【到達目標】 40点満点を取る														
7	【授業単元】 スポーツにおける特殊な外傷への救急対応  【到達目標】 各競技における特殊外傷の種類と対応方法について理解する	15	【授業単元】 期末テスト(筆記)  【到達目標】 60点満点を取る														
8	【授業単元】 シミュレーションワーク①  【到達目標】 屋外スポーツにおける熱中症を想定したシミュレーションワークを通じ、手順の流れを判断していく		【成績評価の方法と基準】 ・授業点:40点満点 ・定期試験:60点満点 ・合計100点満点														
	【履修に当たっての心構え・留意点】  アスレティックトレーナーの資格取得のために必要不可欠な内容となる																

## 授業概要

科目名	指導者の役割	必修 選択の別	選択	開講 区分	後期	担当 教員	干泥公吉		
サブ科目名		学年	1年	授業 形態	講義	総単位数	2 単位	総時間数	30 時間
学科・専攻	アスレティックメディカルトレーナー科								

## 【授業を通じての到達目標】

コーチングとは何か理解し、現代の変化しつつあるスポーツの現場指導に活用できる、  
コーチとはどうあるべきか、その心構えや考え方を知り指導に反映できる知識を得ておられる  
スポーツの指導における暴力やハラスメント、ドーピング問題に対する意識と良識を獲得している

【学習内容】(実務経験のある教員については、どのような実務経験のある教員がどのような授業を実施するのかも記載する)

現役のパーソナルトレーナーとして一般の方からトップアスリートまで広く運動指導を行っている講師が、コーチングの必要性とその有用性及び現場での指導の成果を生み出すための方針について実例を元に詳しく講義を実施する。

現代の変化しつつある運動指導の現場に大きく影響する内容であるため、十分に取り組むことを願う

【使用教科書・教材・参考図書】

「Reference Book | 公益財団法人日本スポーツ協会」

Teamsにて提示

### 「授業時間外における学習」

より高い理解につなげるために教科書の内容に目を通し、十分な予習を行うことが望ましい。

コマ	授業計画	コマ	授業計画
1	<p>【授業単元】 ガイドンス～コマシラバス確認 コーチングとは:コーチングとコーチを定義する</p> <p>【到達目標】 授業の目的の理解と評価基準を理解している(コマシラバス確認) コーチングとは何か、コーチとは何かを理解し、簡潔に説明できる</p>	9	<p>【授業単元】 暴力・ハラスメントの根絶</p> <p>【到達目標】 暴力や体罰はなぜ許されないのか、また、ハラスメントにはどのようなものがあるのかを理解し説明できる</p>
2	<p>【授業単元】 グッドプレーヤーを育てるグッドコーチ コーチングの目的としての4Cs</p> <p>【到達目標】 グッドプレーヤー像とはどういうものか、またグッドプレーヤーを育てるグッドコーチ像とはどういうものかを理解している アスリートが育むべき4つの要素を周知している</p>	10	<p>【授業単元】 暴力・ハラスメントの根絶2</p> <p>【到達目標】 セクハラの定義やスポーツ界におけるセクハラ内容を知るとともに判断できる暴力やハラスメントの根絶のために何をするべきかを理解し説明できる</p>
3	<p>【授業単元】 プレーヤーズセンタードなコーチング</p> <p>【到達目標】 プレーヤーズセンタードなコーチングとはどういうことか、またプレーヤーの成長を妨げる行動と自立を支援する行動を理解している</p>	11	<p>【授業単元】 スポーツのインテグリティ</p> <p>【到達目標】 スポーツにおけるインテグリティを害するドーピングについて詳しく理解している アンチドーピング活動とWADAについて知り、ドーピングをなぜ防止するべきかを理解し説明できる</p>
4	<p>【授業単元】 コーチに求められる役割 日本スポーツ協会公認スポーツ指導者が負う責任と求められる役割</p> <p>【到達目標】 現代に求められる指導者像とはどういうものか、またその心構えはどういうものかを周知している</p>	12	<p>【授業単元】 スポーツのインテグリティ2</p> <p>【到達目標】 アンチ・ドーピング活動における禁止物質や禁止方法にはどのようなものがあるかを理解している ドーピング違反とならないための方法を知り、今後のトレーナー活動に活用できる</p>
5	<p>【授業単元】 安全な環境構築</p> <p>【到達目標】 コーチの主たる機能と必要とされる知識を理解している 安全な環境構築と問題発生時の対処法について具体的な内容を理解している</p>	13	<p>【授業単元】 スポーツのインテグリティ3</p> <p>【到達目標】 スポーツにおけるインテグリティを害するドーピングの危険が身近にあることを知り、注意を促すことができる ドーピングにおける様々な手続きの方法やアスリートの厳格責任を理解し、説明できる</p>
6	<p>【授業単元】 コーチング文脈</p> <p>【到達目標】 コーチング文脈とは何か、またコーチに求められる知識として、専門的知識、対他者の知識、对自己の知識とはそれぞれどういうものかを理解し説明できる</p>	14	<p>【授業単元】 まとめ</p> <p>【到達目標】 前期後半までの内容を振り返ることで自己の習得状況を確認するとともに、未習得部分の克服を図り期末テストに備える</p>
7	<p>【授業単元】 まとめ</p> <p>【到達目標】 前期前半までの内容を振り返ることで自己の習得状況を確認するとともに、未習得部分の克服を図り中間テストに備える</p>	15	<p>【授業単元】 期末試験と解説</p> <p>【到達目標】 理解できていない課題部分の習得状況を明確にし、解説により最終確認を行う</p>
8	<p>【授業単元】 中間試験と解説</p> <p>【到達目標】 理解できていない課題部分の習得状況を明確にし、解説により最終確認を行う</p>		<p>【成績評価の方法と基準】 授業点40点(中間試験15点含む)、期末テスト60点の合計100点で判定する。 評価はA～Fの6段階で評価する。 授業点は小テスト(2～3点)を実施し、都度授業の理解度を確認する。 中間テストと期末試験は筆記試験を実施し、専門的知識の習得度を確認する。</p>
【履修に当たっての心構え・留意点】			
レジュメの完成のみならず、必要と認められる内容については口頭説明であっても積極的にメモをとること。			

授業概要														
科目名	人体の解剖と機能	必修選択の別	選択	開講区分	前期	担当教員	南 俊行							
サブ科目名		学年	1年	授業形態	演習	総単位数	6 単位	総時間数 90 時間						
学科・専攻	アスレティックメディカルトレーナー科													
【授業を通じての到達目標】														
全身の運動器の解剖と機能を理解し、説明できる。他科目において活用できる知識とする														
【学習内容】(実務経験のある教員については、どのような実務経験のある教員がどのような授業を実施するのかも記載する)														
学生(大学)時代からトレーナーとして活動し、整形外科でのリハビリスタッフ経験(3年間)を活かしながら、育成年代(小学～大学)を中心にトレーナー活動を行なっている教員が、アスレティックトレーナーにとって必要な基礎的な運動器の解剖と機能について講義し、実際の運動を交えながら授業を行う														
【使用教科書・教材・参考図書】				【授業時間外における学習】										
アスレティックトレーナー専門基礎科目テキスト1運動器の機能と構造 -スポーツ動作の機能解剖-				他科目において解剖学の資料を活用しながら予習や復習を行う										
コマ	授業計画	コマ	授業計画											
1・2	【授業単元】 学びの流れを掴もう	17・18	【授業単元】 体幹											
	【到達目標】 自己紹介をしてお互いを知ろう！ 授業の全体像を理解し、学びのリズムを掴める		【到達目標】 運動学の要点を理解し、説明できる											
3・4	【授業単元】 全身の主要部位の名称を覚えよう	19・20	【授業単元】 体幹											
	【到達目標】 体表区分(下腿・大腿など)について理解する 全身の骨・関節の名称を覚え、説明できる 運動の面と軸、基本運動について理解する		【到達目標】 運動に関与する組織について理解し、説明できる											
5・6	【授業単元】 下腿部・足関節・足部	21・22	【授業単元】 頭頸部											
	【到達目標】 運動学の要点を理解し、説明できる		【到達目標】 運動学の要点を理解し、説明できる											
7・8	【授業単元】 下腿部・足関節・足部	23・24	【授業単元】 頭頸部											
	【到達目標】 運動に関与する組織について理解し、説明できる		【到達目標】 運動に関与する組織について理解し、説明できる											
9・10	【授業単元】 膝関節	25・26	【授業単元】 肩甲帯・肩関節・上腕部											
	【到達目標】 運動学の要点を理解し、説明できる		【到達目標】 運動学の要点を理解し、説明できる											
11・12	【授業単元】 膝関節	27・28	【授業単元】 肩甲帯・肩関節・上腕部											
	【到達目標】 運動に関与する組織について理解し、説明できる		【到達目標】 運動に関与する組織について理解し、説明できる											
13・14	【授業単元】 骨盤帯・股関節・大腿部	29・30	【授業単元】 肘関節/定期試験											
	【到達目標】 運動学の要点を理解し、説明できる		【到達目標】 運動学の要点を理解し、説明できる/成績評価の方法と基準を参照											
15・16	【授業単元】 骨盤帯・股関節・大腿部		【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、授業評価(平素の学習状況・出席状況など)を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 試験は筆記(選択)試験で行う。											
	【到達目標】 運動に関与する組織について理解し、説明できる													
【履修に当たっての心構え・留意点】														
特になし														

授業概要																	
科目名	人体の解剖と機能	必修選択の別	選択	開講区分	前期	担当教員	南 俊行										
サブ科目名		学年	1年	授業形態	演習	総単位数	6 単位	総時間数	90 時間								
学科・専攻	アスレティックメディカルトレーナー科																
【授業を通じての到達目標】																	
全身の運動器の解剖と機能を理解し、説明できる。他科目において活用できる知識とする																	
【学習内容】(実務経験のある教員については、どのような実務経験のある教員がどのような授業を実施するのかも記載する)																	
学生(大学)時代からトレーナーとして活動し、整形外科でのリハビリスタッフ経験(3年間)を活かしながら、育成年代(小学~大学)を中心にトレーナー活動を行なっている教員が、アスレティックトレーナーにとって必要な基礎的な運動器の解剖と機能について講義し、実際の運動を交えながら授業を行う																	
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】												
アスレティックトレーナー専門基礎科目テキスト1運動器の機能と構造 -スポーツ動作の機能解剖-					他科目において解剖学の資料を活用しながら予習や復習を行う												
コマ	授業計画	コマ	授業計画														
31	【授業単元】肘関節 【到達目標】運動に関与する組織について理解し、説明できる	39	【授業単元】肩甲帯・肩関節・上腕部 【到達目標】筋の走行と機能について理解し、説明できる														
32	【授業単元】手関節・手指 【到達目標】運動学の要点を理解し、説明できる	40	【授業単元】肘関節 【到達目標】筋の走行と機能について理解し、説明できる														
33	【授業単元】手関節・手指 【到達目標】運動に関与する組織について理解し、説明できる	41	【授業単元】手関節・手指 【到達目標】筋の走行と機能について理解し、説明できる														
34	【授業単元】下腿部・足関節・足部 【到達目標】筋の走行と機能について理解し、説明できる	42	【授業単元】下肢の機能と構造 【到達目標】復習														
35	【授業単元】膝関節 【到達目標】筋の走行と機能について理解し、説明できる	43	【授業単元】頭頸部・体幹の機能と構造 【到達目標】復習														
36	【授業単元】骨盤帯・股関節・大腿部 【到達目標】筋の走行と機能について理解し、説明できる	44	【授業単元】上肢の機能と構造 【到達目標】復習														
37	【授業単元】体幹 【到達目標】筋の走行と機能について理解し、説明できる	45	【授業単元】定期試験/振り返り 【到達目標】成績評価の方法と基準を参照														
38	【授業単元】頭頸部 【到達目標】筋の走行と機能について理解し、説明できる	【成績評価の方法と基準】					講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、授業評価(平素の学習状況・出席状況など)を40点の配点とし、両者の合計点でA~Fの6段階で評価する。 試験は筆記(選択)試験で行う。										
【履修に当たっての心構え・留意点】																	
特になし																	

## 授業概要

科目名	コンディショニング	必修選択の別	選択	開講区分	後期	担当教員	伊藤 椎		
サブ科目名		学年	1年	授業形態	演習	総単位数	6 単位	総時間数	90 時間
学科・専攻	アスレティックメディカルトレーナー科								
【授業を通じての到達目標】									
コンディショニングの計画立案と実践に必要な知識をもとに、安全で効果的なコンディショニング計画と実践ができる。対象者の競技特性や体力・運動能力の特徴を把握するための測定評価を行い、その結果をコンディショニング計画立案に活用できる。各種体力・運動能力向上のためのコンディショニング計画立案と実践に必要な知識について理解し、安全で効果的に実践できる。対象者の特徴や、環境変化が対象者のコンディションに及ぼす影響を理解し、それらの情報を安全で効果的なコンディショニング計画と実践に活用できる。									
【学習内容】(実務経験のある教員については、どのような実務経験のある教員がどのような授業を実施するのかも記載する)									
本科目では、対象者のパフォーマンス発揮に必要な要因を分析し、目標を達成するために現状と目標値の差を最小化するための支援を安全かつ効果的に行うための知識、技能、態度を習得することをねらいとする。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
専門科目テキスト、共通科目リファレンスブック、各種参考資料 各種トレーニング用具、各種測定評価用具 グランドや体育館などの実習施設、ウェイトトレーニング施設					小テストの復習				
コマ	授業計画	コマ	授業計画						
1	【授業単元】 JSPO-AT としてのコンディショニング①  【到達目標】 コンディショニングの定義、コンディショニングで調整すべき要因について理解する	9	【授業単元】 競技特性の分析: グループワーク②  【到達目標】 各競技の競技特性の分析し、各競技の競技特性の理解を深める						
2	【授業単元】 JSPO-AT としてのコンディショニング②  【到達目標】 コンディショニングで調整すべき要因と要素について理解する	10	【授業単元】 競技特性の分析: グループ発表  【到達目標】 各競技の競技特性の分析し、各競技の競技特性の理解を深める						
3	【授業単元】 コンディショニングのプログラムデザイン①  【到達目標】 コンディショニングにおける基礎知識、コンディショニングプログラムについて理解する	11	【授業単元】 ストレングストレーニングの理論  【到達目標】 ストレングストレーニングの理論について理解する						
4	【授業単元】 コンディショニングのプログラムデザイン②  【到達目標】 トレーニング負荷のモニタリング、ウォームアップの科学的基礎について理解する	12	【授業単元】 ストレングストレーニングの実践  【到達目標】 ストレングストレーニングの実践について理解する						
5	【授業単元】 コンディショニングのプログラムデザイン③  【到達目標】 リカバリーの理論と実践について理解する	13	【授業単元】 ストレングストレーニングのプログラムデザイン: グループワーク①  【到達目標】 実際にトレーニングのプログラムを作成し、選手やチームに指導できる実践力を身につける						
6	【授業単元】 競技特性の分析  【到達目標】 競技特性の運動生理学的分析、バイオメカニクス的分析について理解する	14	【授業単元】 ストレングストレーニングのプログラムデザイン: グループワーク②  【到達目標】 実際にトレーニングのプログラムを作成し、選手やチームに指導できる実践力を身につける						
7	【授業単元】 各競技の競技特性の分析  【到達目標】 ラグビーと野球を例にした競技特性分析について理解する□ □	15	【授業単元】 ストレングストレーニングのプログラムデザイン: グループ発表  【到達目標】 作成したトレーニングプログラムをクラスで発表し、トレーニングの考え方やバリエーションの理解を深める						
8	【授業単元】 競技特性の分析: グループワーク①  【到達目標】 各競技の競技特性の分析し、各競技の競技特性の理解を深める		【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期試験を60点、授業評価(平素の学習状況・出席状況など)を40点の配点とし、両者の合計点でA~Fの6段階で評価する。  試験は筆記試験で行う。						
【履修に当たっての心構え・留意点】									
特になし									

## 授業概要

科目名	コンディショニング	必修選択の別	選択	開講区分	後期	担当教員	伊藤 彰		
サブ科目名		学年	1年	授業形態	演習	総単位数	6 単位	総時間数	90 時間
学科・専攻	アスレティックメディカルトレーナー科								
【授業を通じての到達目標】									
コンディショニングの計画立案と実践に必要な知識をもとに、安全で効果的なコンディショニング計画と実践ができる。対象者の競技特性や体力・運動能力の特徴を把握するための測定評価を行い、その結果をコンディショニング計画立案に活用できる。各種体力・運動能力向上のためのコンディショニング計画立案と実践に必要な知識について理解し、安全で効果的に実践できる。対象者の特徴や、環境変化が対象者のコンディションに及ぼす影響を理解し、それらの情報を安全で効果的なコンディショニング計画と実践に活用できる。									
【学習内容】(実務経験のある教員については、どのような実務経験のある教員がどのような授業を実施するのかも記載する)									
本科目では、対象者のパフォーマンス発揮に必要な要因を分析し、目標を達成するために現状と目標値の差を最小化するための支援を安全かつ効果的に行うための知識、技能、態度を習得することをねらいとする。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
専門科目テキスト、共通科目リファレンスブック、各種参考資料 各種トレーニング用具、各種測定評価用具 グランドや体育館などの実習施設、ウェイトトレーニング施設					小テストの復習				
コマ	授業計画	コマ	授業計画						
16	【授業単元】 スプリントトレーニングの理論  【到達目標】 スプリントトレーニングの理論について理解する	24	【授業単元】 アジリティトレーニングのプログラムデザイン:グループワーク②  【到達目標】 実際にトレーニングのプログラムを作成し、選手やチームに指導できる実践力を身につける						
17	【授業単元】 スプリントトレーニングの実践  【到達目標】 スプリントトレーニングの実践について理解する	25	【授業単元】 アジリティトレーニングのプログラムデザイン:グループ発表  【到達目標】 作成したトレーニングプログラムをクラスで発表し、トレーニングの考え方やバリエーションの理解を深める						
18	【授業単元】 スプリントトレーニングのプログラムデザイン:グループワーク①  【到達目標】 実際にトレーニングのプログラムを作成し、選手やチームに指導できる実践力を身につける	26	【授業単元】 エンデュランストレーニングの理論  【到達目標】 エンデュランストレーニングの理論について理解する						
19	【授業単元】 スプリントトレーニングのプログラムデザイン:グループワーク②  【到達目標】 実際にトレーニングのプログラムを作成し、選手やチームに指導できる実践力を身につける	27	【授業単元】 エンデュランストレーニングの実践  【到達目標】 エンデュランストレーニングの実践について理解する						
20	【授業単元】 スプリントトレーニングのプログラムデザイン:グループ発表  【到達目標】 作成したトレーニングプログラムをクラスで発表し、トレーニングの考え方やバリエーションの理解を深める	28	【授業単元】 エンデュランストレーニングのプログラムデザイン:グループワーク①  【到達目標】 実際にトレーニングのプログラムを作成し、選手やチームに指導できる実践力を身につける						
21	【授業単元】 アジリティトレーニングの理論  【到達目標】 アジリティトレーニングの理論について理解する	29	【授業単元】 エンデュランストレーニングのプログラムデザイン:グループワーク②  【到達目標】 実際にトレーニングのプログラムを作成し、選手やチームに指導できる実践力を身につける						
22	【授業単元】 アジリティトレーニングの実践  【到達目標】 アジリティトレーニングの実践について理解する	30	【授業単元】 エンデュランストレーニングのプログラムデザイン:グループ発表  【到達目標】 作成したトレーニングプログラムをクラスで発表し、トレーニングの考え方やバリエーションの理解を深める						
23	【授業単元】 アジリティトレーニングのプログラムデザイン:グループワーク①  【到達目標】 実際にトレーニングのプログラムを作成し、選手やチームに指導できる実践力を身につける		【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期試験を60点、授業評価(平素の学習状況・出席状況など)を40点の配点とし、両者の合計点でA~Fの6段階で評価する。 試験は筆記試験で行う。						
【履修に当たっての心構え・留意点】									
特になし									

## 授業概要

## 【授業を通じての到達目標】

コンディショニングの計画立案と実践に必要な知識をもとに、安全で効果的なコンディショニング計画と実践ができる。対象者の競技特性や体力・運動能力の特徴を把握するための測定評価を行い、その結果をコンディショニング計画立案に活用できる。各種体力・運動能力向上のためのコンディショニング計画立案と実践に必要な知識について理解し、安全で効果的に実践できる。対象者の特徴や、環境変化が対象者のコンディションに及ぼす影響を理解し、それらの情報を安全で効果的なコンディショニング計画と実践に活用できる。

【学習内容】(実務経験のある教員については、どのような実務経験のある教員がどのような授業を実施するのかも記載する)

【学習目標】  
本科目では、対象者のパフォーマンス発揮に必要な要因を分析し、目標を達成するために現状と目標値の差を最小化するための支援を安全かつ効果的に行うための知識、技能、態度を習得することをねらいとする。

【使用教科書・教材・参考図書】		【授業時間外における学習】	
専門科目テキスト、共通科目リファレンスブック、各種参考資料 各種トレーニング用具、各種測定評価用具 グランドや体育館などの実習施設、ウェイトトレーニング施設		小テストの復習	
コマ	授業計画	コマ	授業計画
31	【授業単元】 バランストレーニングの理論	39	【授業単元】 ストレッチングのプログラムデザイン・グループワーク②
	【到達目標】 バランストレーニングの理論について理解する		【到達目標】 実際にトレーニングのプログラムを作成し、選手やチームに指導できる実践力を身につける
32	【授業単元】 バランストレーニングの実践	40	【授業単元】 ストレッチングのプログラムデザイン・グループ発表
	【到達目標】 バランストレーニングの実践について理解する		【到達目標】 作成したトレーニングプログラムをクラスで発表し、トレーニングの考え方やバリエーションの理解を深める
33	【授業単元】 バランストレーニングのプログラムデザイン・グループワーク①	41	【授業単元】 状況別・対象者別のコンディショニング：外的環境、女性アスリート
	【到達目標】 実際にトレーニングのプログラムを作成し、選手やチームに指導できる実践力を身につける		【到達目標】 外的環境を考慮したコンディショニングや女性アスリートに対するコンディショニングについて理解する
34	【授業単元】 バランストレーニングのプログラムデザイン・グループワーク②	42	【授業単元】 状況別・対象者別のコンディショニング：成長期、高齢者、障害者
	【到達目標】 実際にトレーニングのプログラムを作成し、選手やチームに指導できる実践力を身につける		【到達目標】 成長期や高齢者、障害者に対するコンディショニングについて理解する
35	【授業単元】 バランストレーニングのプログラムデザイン・グループ発表	43	【授業単元】 状況別・対象者別のコンディショニング：減量、増量
	【到達目標】 作成したトレーニングプログラムをクラスで発表し、トレーニングの考え方やバリエーションの理解を深める		【到達目標】 減量や増量の場合のコンディショニングについて理解する
36	【授業単元】 ストレッチングの理論	44	【授業単元】 まとめ
	【到達目標】 ストレッチングの理論について理解する		【到達目標】 専門テキストの内容を理解する
37	【授業単元】 ストレッチングの実践	45	【授業単元】 定期試験
	【到達目標】 ストレッチングの実践について理解する		【到達目標】 定期試験の振り返りをし、間違えた箇所・理解できなかった箇所を理解するため再度学習する
38	【授業単元】 ストレッチングのプログラムデザイン・グループワーク①	【成績評価の方法と基準】	
	【到達目標】 実際にトレーニングのプログラムを作成し、選手やチームに指導できる実践力を身につける	講義全体を100点満点とし、定期試験を60点、授業評価(平素の学習状況・出席状況など)を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。  試験は筆記試験で行う。	
【履修に当たっての心構え・留意点】			
特になし			

## 授業概要

科目名	導入教育Ⅲ	必修選択の別	選択	開講区分	集中	担当教員	白井奈央/平林美美江			
サブ科目名		学年	1年	授業形態	演習	総単位数	3 単位	総時間数	45 時間	
学科・専攻	アスレティックメディカルトレーナー科									
<b>【授業を通じての到達目標】</b>										
<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスの相互支援体制が構築される</li> <li>・スポーツ現場実習に臨むための気構え、身構え、心構えが身に付き、実際の現場で発揮できる</li> <li>・スポーツ現場実習を終えた後に自身の成果を発表できる</li> </ul>										
<b>【学習内容】(実務経験のある教員については、どのような実務経験のある教員がどのような授業を実施するのかも記載する)</b>										
アスレティックトレーナーとして長年に渡って、スポーツ現場に携わってきた教員が、アスレティックトレーナーを目指すに当たって必要なマインドを伝えるとに、様々な企画を通してクラスの相互支援体制を構築するための授業である。										
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>					<b>【授業時間外における学習】</b>					
特になし					常にスッキリ・ハッキリ・元気よく挨拶すること					
コマ	授業計画	コマ	授業計画							
1~6	【授業単元】 導入Ⅰ	22~23	【授業単元】 実習前教育							
	【到達目標】 クラスの相互支援体制を構築する		【到達目標】 スポーツ現場に臨むための、気構え・身構え・心構えを体現できる。							
7~8	【授業単元】 球技大会		【授業単元】							
	【到達目標】 球技大会を通して、クラスの相互支援体制を構築する		【到達目標】							
9	【授業単元】 学園祭		【授業単元】							
	【到達目標】 学園祭に参加することで授業以外の楽しみを発見する。 また、2年生の活動の様子を見学し、次年度の学園祭の参考にする。		【到達目標】							
10~11	【授業単元】 現場見学実習		【授業単元】							
	【到達目標】 スポーツ現場へ見学に行き、目標や将来像を明確にする。		【到達目標】							
12~15	【授業単元】 導入Ⅱ		【授業単元】							
	【到達目標】 スポーツ現場に挑むための、気構え・身構え・心構えが体現できる。		【到達目標】							
16~17	【授業単元】 スポーツ大会		【授業単元】							
	【到達目標】 スポーツ大会を通して、クラスの相互支援体制を構築する。		【到達目標】							
18	【授業単元】 国際教育		【授業単元】							
	【到達目標】 特別講師による講和を通して、自分自身の視野(意識)を海外へ向けられるようになる。		【到達目標】							
19~21	【授業単元】 AT実習報告会		【成績評価の方法と基準】							
	【到達目標】 AT実習報告会に参加し、講和を聞いたうえで自身の実習生像を明確にことができる。		学則施行細則第10条5項の規定によるSU評価に従って単位を認定する。 70%以上の出席率に満たない場合は定期試験の受験資格を喪失しEとする。							
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>										
オンとオフを切り替えて参加すること。										

アスレティック  
メディカルトレーナー科

午後部

2024 入学

## 授業概要

## 授業概要

科目名	スポーツ社会学	必修選択の別	選択	開講区分	後期	担当教員	干泥公吉							
サブ科目名		学年	2年	授業形態	講義	総単位数	2 単位	総時間数	30 時間					
学科・専攻	アスレティックメディカルトレーナー科													
<b>【授業を通じての到達目標】</b>														
日本スポーツ協会公認スポーツ指導員として求められる知識を理解している コーチングの内容を軸に現代における指導者としてのモラルや倫理を獲得する スポーツにおける様々な問題点に目を向け、指導者として今後の国際的な活動を見据えた視野を広げる														
<b>【学習内容】(実務経験のある教員については、どのような実務経験のある教員がどのような授業を実施するかも記載する)</b>														
現役のパーソナルトレーナーとして一般の方からトップアスリートまで広く運動指導を行っている講師が、指導を円滑に行い成果を生み出すためのコーチングについて詳しい講義を実施する。 コーチングは、現代の大きく変化する運動指導の現場において必須内容であると考えられるため、十分に取り組むことを願う。														
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>				<b>【授業時間外における学習】</b>										
Teamsにて提示				より高い理解につなげるために資料の内容に目を通し、十分な予習を行うことが望ましい。										
コマ	授業計画	コマ	授業計画											
1	【授業単元】 ガイダンス、パラスポーツと問題点  【到達目標】 授業の目的的理解と評価基準を理解している パラスポーツの様々な問題点を知り、より良い状態にするための指導者の視点を獲得する	9	【授業単元】 スポーツと教育  【到達目標】 スポーツと体育の関係性、学校の課外活動におけるスポーツのあり方等を国内外の事例から検討する。											
2	【授業単元】 パラスポーツとドーピング  【到達目標】 パラスポーツにおけるドーピングの事例や現状を確認し、治療のための使用と治療使用特例(TUE)について理解する	10	【授業単元】 スポーツと地域社会  【到達目標】 地域におけるスポーツのあり方を、社会学的観点から理解する。											
3	【授業単元】 パラスポーツと共生社会  【到達目標】 パラスポーツとは何か、その歴史と魅力を知るとともに実施により次世代に受け継がれるレガシーを理解する	11	【授業単元】 スポーツ政策とスポーツ振興  【到達目標】 我が国のスポーツ政策とスポーツ振興に関する問題を、諸外国の事例と比較して検討する。											
4	【授業単元】 地球温暖化とスポーツ  【到達目標】 地球温暖化による環境問題が、どのようにスポーツに影響を与えてくるのか、指導者として考えを及ぼし具体的行動や対策を周知する	12	【授業単元】 日本社会とスポーツ  【到達目標】 日本社会におけるスポーツ文化の発展形態や、その特色について考える。											
5	【授業単元】 スポーツと人種差別  【到達目標】 スポーツにおける人種差別の歴史を理解するとともに、今後の指導活動において公平・公正な判断ができる能力の基礎となる考え方を獲得する	13	【授業単元】 スポーツ社会学研究の国際比較  【到達目標】 スポーツ社会学研究の国際的な傾向や方法論について考える。											
6	【授業単元】 オリンピックと環境問題  【到達目標】 スポーツの一大イベントであるオリンピック開催のメリット、デメリットを検討し、今後の開催が果たして有用なのかグローバルな視野を育む	14	【授業単元】 まとめ  【到達目標】 内容を振り返ることで自己の習得状況を確認するとともに、未習得部分の克服を図り試験に備える											
7	【授業単元】 スポーツとジェンダー  【到達目標】 スポーツにおけるジェンダーバイアスの生成に関して、国内外の事例から考える。	15	【授業単元】 試験と解説  【到達目標】 理解できていない課題部分の習得状況を明確にし、解説により最終確認を行う											
8	【授業単元】 スポーツと政治・権力  【到達目標】 スポーツと政治の関わり合いに関して、歴史社会学的な研究経緯を示した上で現代的問題に関して理解する。		<b>【成績評価の方法と基準】</b> 授業点40点(中間試験15点含む)、期末テスト60点の合計100点で判定する。 評価はA~Fの6段階で評価する。 授業点は小テスト(1回~6回各5点、7回10点)を実施し、都度授業の理解度を確認する。 最終試験は筆記試験を実施し、専門的知識の習得度を確認する。											
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>														
レジュメの完成のみならず、必要と認められる内容については口頭説明であっても積極的にメモをとること。														

## 授業概要

科目名	アスレティックトレーナー特別講座	必修選択の別	選択	開講区分	集中	担当教員	松田 直樹							
サブ科目名		学年	2年	授業形態	講義	総単位数	8 単位	総時間数	120 時間					
学科・専攻	アスレティックメディカルトレーナー科													
【授業を通じての到達目標】														
アスレティックトレーナー理論試験の合格に必要な知識を習得し、それぞれのスポーツ現場において即戦力となる														
【学習内容】(実務経験のある教員については、どのような実務経験のある教員がどのような授業を実施するかも記載する)														
長きに渡って、国立スポーツ科学センターや各年代の日本代表でアスレティックトレーナーとして従事していた教員がアスレティックトレーナー理論試験合格のための授業を実施する														
【使用教科書・教材・参考図書】				【授業時間外における学習】										
アスレティックトレーナー専門科目テキスト①～⑨ AT特講オリジナルテキスト				授業までに予習をすることと授業後には復習をし、過去問を回答しておくこと										
コマ	授業計画	コマ	授業計画											
1	【授業単元】 アスレティックリハビリテーションに必要な知識(解剖学・運動生理学)  【到達目標】 アスレティックリハビリテーションに必要な解剖学や運動生理学の知識を習得する	9	【授業単元】 アスレティックリハビリテーションに必要な知識(解剖学・外傷障害)～体幹部・骨盤～  【到達目標】 アスレティックリハビリテーションに必要な解剖学や外傷・障害の知識を習得する											
2	【授業単元】 アスレティックリハビリテーションに必要な知識(解剖学・外傷障害)～肩関節～  【到達目標】 アスレティックリハビリテーションに必要な解剖学や外傷・障害の知識を習得する	10	【授業単元】 アスレティックリハビリテーションに必要な知識(解剖学・外傷障害)～股関節～  【到達目標】 アスレティックリハビリテーションに必要な解剖学や外傷・障害の知識を習得する											
3	【授業単元】 アスレティックリハビリテーションに必要な知識(解剖学・外傷障害)～上腕部・前腕部～  【到達目標】 アスレティックリハビリテーションに必要な解剖学や外傷・障害の知識を習得する	11	【授業単元】 アスレティックリハビリテーションに必要な知識(解剖学・外傷障害)～大腿部～  【到達目標】 アスレティックリハビリテーションに必要な解剖学や外傷・障害の知識を習得する											
4	【授業単元】 アスレティックリハビリテーションに必要な知識(解剖学・外傷障害)～手関節・手部～  【到達目標】 アスレティックリハビリテーションに必要な解剖学や外傷・障害の知識を習得する	12	【授業単元】 アスレティックリハビリテーションに必要な知識(解剖学・外傷障害)～膝関節～  【到達目標】 アスレティックリハビリテーションに必要な解剖学や外傷・障害の知識を習得する											
5	【授業単元】 アスレティックリハビリテーションに必要な知識(解剖学・外傷障害)～頭頸部外傷～  【到達目標】 アスレティックリハビリテーションに必要な解剖学や外傷・障害の知識を習得する	13	【授業単元】 アスレティックリハビリテーションに必要な知識(解剖学・外傷障害)～下腿部～  【到達目標】 アスレティックリハビリテーションに必要な解剖学や外傷・障害の知識を習得する											
6	【授業単元】 アスレティックリハビリテーションに必要な知識(解剖学・外傷障害)～頸椎～  【到達目標】 アスレティックリハビリテーションに必要な解剖学や外傷・障害の知識を習得する	14	【授業単元】 アスレティックリハビリテーションに必要な知識(解剖学・外傷障害)～足関節～  【到達目標】 アスレティックリハビリテーションに必要な解剖学や外傷・障害の知識を習得する											
7	【授業単元】 アスレティックリハビリテーションに必要な知識(解剖学・外傷障害)～胸椎～  【到達目標】 アスレティックリハビリテーションに必要な解剖学や外傷・障害の知識を習得する	15	【授業単元】 アスレティックリハビリテーションに必要な知識(解剖学・外傷障害)～足部～  【到達目標】 アスレティックリハビリテーションに必要な解剖学や外傷・障害の知識を習得する											
8	【授業単元】 アスレティックリハビリテーションに必要な知識(解剖学・外傷障害)～腰椎～  【到達目標】 アスレティックリハビリテーションに必要な解剖学や外傷・障害の知識を習得する		【成績評価の方法と基準】 学則施行細則の第6条4に則り、7割以上の出席をもってSU評価にて認定とする。											
【履修に当たっての心構え・留意点】														
特になし														

## 授業概要

科目名	アスレティックトレーナー特別講座	必修選択の別	選択	開講区分	集中	担当教員	松田 直樹							
サブ科目名		学年	2年	授業形態	講義	総単位数	8 単位	総時間数	120 時間					
学科・専攻	アスレティックメディカルトレーナー科													
【授業を通じての到達目標】														
アスレティックトレーナー理論試験の合格に必要な知識を習得し、それぞれのスポーツ現場において即戦力となる														
【学習内容】(実務経験のある教員については、どのような実務経験のある教員がどのような授業を実施するかも記載する)														
長きに渡って、国立スポーツ科学センターや各年代の日本代表でアスレティックトレーナーとして従事していた教員がアスレティックトレーナー理論試験合格のための授業を実施する														
【使用教科書・教材・参考図書】				【授業時間外における学習】										
アスレティックトレーナー専門科目テキスト①~⑨ AT特講オリジナルテキスト				授業までに予習をすることと授業後には復習をし、過去問を回答しておくこと										
コマ	授業計画	コマ	授業計画											
16	【授業単元】 アスレティックリハビリテーション概論(総論)  【到達目標】 アスレティックリハビリテーションの実施に必要な知識を習得する	24	【授業単元】 アスレティックリハビリテーションプログラムの実際(肘関節)  【到達目標】 アスレティックリハビリテーションプログラム立案および実施に必要な知識を習得する											
17	【授業単元】 アスレティックリハビリテーション概論(物理療法)  【到達目標】 アスレティックリハビリテーションの実施に必要な知識を習得する	25	【授業単元】 アスレティックリハビリテーションプログラムの実際(手関節・手部)  【到達目標】 アスレティックリハビリテーションプログラム立案および実施に必要な知識を習得する											
18	【授業単元】 アスレティックリハビリテーション概論(補装具)  【到達目標】 アスレティックリハビリテーションの実施に必要な知識を習得する	26	【授業単元】 アスレティックリハビリテーションプログラムの実際(足関節)  【到達目標】 アスレティックリハビリテーションプログラム立案および実施に必要な知識を習得する											
19	【授業単元】 アスレティックリハビリテーション概論(機能評価)  【到達目標】 アスレティックリハビリテーションの実施に必要な知識を習得する	27	【授業単元】 アスレティックリハビリテーションプログラムの実際(下腿部)  【到達目標】 アスレティックリハビリテーションプログラム立案および実施に必要な知識を習得する											
20	【授業単元】 アスレティックリハビリテーション概論(競技別)  【到達目標】 アスレティックリハビリテーションの実施に必要な知識を習得する	28	【授業単元】 アスレティックリハビリテーションプログラムの実際(膝関節)  【到達目標】 アスレティックリハビリテーションプログラム立案および実施に必要な知識を習得する											
21	【授業単元】 アスレティックリハビリテーションプログラムの実際(頸椎)  【到達目標】 アスレティックリハビリテーションプログラム立案および実施に必要な知識を習得する	29	【授業単元】 アスレティックリハビリテーションプログラムの実際(大腿部)  【到達目標】 アスレティックリハビリテーションプログラム立案および実施に必要な知識を習得する											
22	【授業単元】 アスレティックリハビリテーションプログラムの実際(腰椎)  【到達目標】 アスレティックリハビリテーションプログラム立案および実施に必要な知識を習得する	30	【授業単元】 アスレティックリハビリテーションプログラムの実際(股関節)  【到達目標】 アスレティックリハビリテーションプログラム立案および実施に必要な知識を習得する											
23	【授業単元】 アスレティックリハビリテーションプログラムの実際(肩関節)  【到達目標】 アスレティックリハビリテーションプログラム立案および実施に必要な知識を習得する		【成績評価の方法と基準】 学則施行細則の第6条4に則り、7割以上の出席をもってSU評価にて認定とする。											
【履修に当たっての心構え・留意点】														
特になし														

科目名	アスレティックトレーナー特別講座	必修選択の別	選択	開講区分	集中	担当教員	松田 直樹										
サブ科目名		学年	2年	授業形態	講義	総単位数	8 単位	総時間数	120 時間								
学科・専攻	アスレティックメディカルトレーナー科																
【授業を通じての到達目標】																	
アスレティックトレーナー理論試験の合格に必要な知識を習得し、それぞれのスポーツ現場において即戦力となる																	
【学習内容】(実務経験のある教員については、どのような実務経験のある教員がどのような授業を実施するかも記載する)																	
長きに渡って、国立スポーツ科学センターや各年代の日本代表でアスレティックトレーナーとして従事していた教員がアスレティックトレーナー理論試験合格のための授業を実施する																	
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】												
アスレティックトレーナー専門科目テキスト①～⑨ AT特講オリジナルテキスト					授業までに予習をすることと授業後には復習をし、過去問を回答しておくこと												
コマ	授業計画	コマ	授業計画														
31	【授業単元】 スポーツ医学と健康管理(ドーピング)  【到達目標】 スポーツ現場におけるドーピングに対する知識を習得する	39	【授業単元】 スポーツ医学と健康管理(呼吸器感染症)  【到達目標】 スポーツ現場における呼吸器感染症に対する知識を習得する														
32	【授業単元】 スポーツ医学と健康管理(循環器疾患)  【到達目標】 スポーツ現場における循環器疾患に対する知識を習得する	40	【授業単元】 スポーツ医学と健康管理(皮膚疾患)  【到達目標】 スポーツ現場における皮膚疾患に対する知識を習得する														
33	【授業単元】 スポーツ医学と健康管理(呼吸器疾患)  【到達目標】 スポーツ現場における呼吸器疾患に対する知識を習得する	41	【授業単元】 スポーツ医学と健康管理(海外遠征時の感染症対策)  【到達目標】 スポーツ現場における海外遠征時の感染症に対する知識を習得する														
34	【授業単元】 スポーツ医学と健康管理(消化器疾患)  【到達目標】 スポーツ現場における消化器疾患に対する知識を習得する	42	【授業単元】 スポーツ医学と健康管理(精神疾患)  【到達目標】 スポーツ現場における精神疾患に対する知識を習得する														
35	【授業単元】 スポーツ医学と健康管理(競技別感染症対策)  【到達目標】 スポーツ現場における競技別感染症に対する知識を習得する	43	【授業単元】 スポーツ医学と健康管理(突然死)  【到達目標】 スポーツ現場における突然死に対する知識を習得する														
36	【授業単元】 スポーツ医学と健康管理(貧血)  【到達目標】 スポーツ現場における貧血に対する知識を習得する	44	【授業単元】 スポーツ医学と健康管理(摂食障害)  【到達目標】 スポーツ現場における摂食障害に対する知識を習得する														
37	【授業単元】 スポーツ医学と健康管理(泌尿器疾患)  【到達目標】 スポーツ現場における泌尿器疾患に対する知識を習得する	45	【授業単元】 スポーツ医学と健康管理(高所環境)  【到達目標】 スポーツ現場における高所環境に対する知識を習得する														
38	【授業単元】 スポーツ医学と健康管理(肥満症)  【到達目標】 スポーツ現場における肥満症に対する知識を習得する		【成績評価の方法と基準】 学則施行細則の第6条4に則り、7割以上の出席をもってSU評価にて認定とする。														
【履修に当たっての心構え・留意点】																	
特になし																	



# 授業概要

科目名	アスレティックリハビリテーション I	必修選択の別	選択	開講区分	不定期	担当教員	荒谷幸次			
サブ科目名		学年	2年	授業形態	演習	総単位数	4 単位	総時間数	60 時間	
学科・専攻	アスレティックメディカルトレーナー科									
【授業を通じての到達目標】										
<ul style="list-style-type: none"> <li>運動療法、物理療法などのアスレティックリハビリテーションに必要な基礎知識を身につける。</li> <li>スポーツ外傷・障害の病態や受傷機転を説明できる。</li> <li>スポーツ外傷・障害の治癒過程に応じたアスレティックリハビリテーションプログラムを立案し、実践できる。</li> </ul>										
【学習内容】										
国立スポーツ科学センターや、ナショナルチームで活動経験がある教員が、運動器の機能解剖やスポーツ外傷・障害の知識を復習しながら、運動療法、物理療法などの基礎知識を学び、スポーツ外傷・障害別のアスレティックリハビリテーションについて、座学と実技を交えて行う。										
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】					
<ul style="list-style-type: none"> <li>公認アスレティックトレーナー専門科目教本7 アスレティックリハビリテーション</li> <li>スポーツ外傷・障害の理学診断 理学療法ガイド(文光堂)</li> <li>適切な判断を導くための整形外科徒手検査法(メディカルビュー)</li> </ul>					授業時間外の予習等について、必要な場合は、その都度授業で案内する。					
コマ	授業計画	コマ	授業計画							
1・2	【授業単元】 ガイダンス・アスレティックリハビリテーションの考え方 運動療法概論・筋力増強・関節可動域エクササイズ	17・18	【授業単元】 膝内側側副靱帯損傷へのアスレティックリハビリテーション	【到達目標】 膝内側側副靱帯損傷の病態について説明できる。 膝内側側副靱帯損傷へのアスレティックリハビリテーションプログラムを立案し、実践できる。						
	【到達目標】 アスレティックリハビリテーションの定義、概要、考え方、リスク管理、運動療法の概要、各種エクササイズの目的を理解する。									
3・4	【授業単元】 神経筋協調性回復、全身持久力回復エクササイズ 身体組成管理、再発予防、外傷予防のためのエクササイズ	19・20	【授業単元】 膝前十字靱帯損傷へのアスレティックリハビリテーション	【到達目標】 膝前十字靱帯損傷の病態について説明できる。 膝前十字靱帯損傷へのアスレティックリハビリテーションプログラムを立案し、実践できる。						
	【到達目標】 神経筋協調性・全身持久力エクササイズの目的を理解する。 身体組成管理、再発予防、外傷予防のためのエクササイズの目的を理解する。									
5・6	【授業単元】 物理療法概論・温熱療法・寒冷療法 電気刺激療法、超音波療法	21・22	【授業単元】 大腿屈筋群肉ばなれへのアスレティックリハビリテーション	【到達目標】 大腿屈筋群肉ばなれの病態について説明できる。 大腿屈筋群肉ばなれへのアスレティックリハビリテーションプログラムを立案し、実践できる。						
	【到達目標】 物理療法概論について理解する。 温熱療法・寒冷療法の分類、目的、禁忌について理解する。 電気刺激療法、超音波療法の目的、禁忌について理解する。									
7・8	【授業単元】 補装具、足底板	23・24	【授業単元】 膝蓋大腿関節障害へのアスレティックリハビリテーション 鷲足炎へのアスレティックリハビリテーション	【到達目標】 膝蓋大腿関節障害、鷲足炎の病態について説明できる。 膝蓋大腿関節障害、鷲足炎のアスレティックリハビリテーションプログラムを立案し、実践できる。						
	【到達目標】 補装具、足底板の目的について理解する。									
9・10	【授業単元】 頸部疾患へのアスレティックリハビリテーション	25・26	【授業単元】 扁平足障害、シンスプリントへのアスレティックリハビリテーション 足関節捻挫へのアスレティックリハビリテーション	【到達目標】 扁平足障害、シンスプリント、足関節捻挫の病態について説明できる。 扁平足障害、シンスプリント、足関節捻挫へのアスレティックリハビリテーションプログラムを立案し、実践できる。						
	【到達目標】 頸部疾患の病態について説明できる。 頸部疾患へのアスレティックリハビリテーションプログラムを立案し、実践できる。									
11・12	【授業単元】 腰部疾患へのアスレティックリハビリテーション	27・28	【授業単元】 症例検討	【到達目標】 提示された症例に対してアスレティックリハビリテーションプログラムを立案し、実践できる。						
	【到達目標】 腰部疾患の病態について説明できる。 腰部疾患へのアスレティックリハビリテーションプログラムを立案し、実践できる。									
13・14	【授業単元】 肩関節前方脱臼へのアスレティックリハビリテーション	29・30	【授業単元】 科目試験	【到達目標】 試験解説、授業内容を振り返る。						
	【到達目標】 肩関節前方脱臼の病態について説明できる。 肩関節前方脱臼へのアスレティックリハビリテーションプログラムを立案し、実践できる。									
15・16	【授業単元】 肘関節・手関節疾患へのアスレティックリハビリテーション		【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、授業評価(平素の学習状況・出席状況など)を40点の配点とし、両者の合計点でA~Fの6段階で評価する。 試験は筆記試験と実技試験を行う。							
	【到達目標】 肘関節・手関節疾患の病態について説明できる。 肘関節・手関節疾患へのアスレティックリハビリテーションプログラムを立案し、実践できる。									
【履修に当たっての心構え・留意点】										
実技を交えて行うので、動きやすい服装で受講すること。										

## 授業概要

科目名	アスレティックリハビリテーションⅡ	必修選択の別	選択	開講区分	集中	担当教員	岸本康平		
サブ科目名		学年	2年	授業形態	演習	総単位数	4 単位	総時間数	60 時間
学科・専攻	アスレティックメディカルトレーナー科								
【授業を通じての到達目標】									
各種目の競技特性と障害発生機序の関係性を理解し、説明することができる。 動作別にスポーツ傷害のメカニズムとリハビリテーションを理解し、説明することができる。 基本的コンディショニング技術・リハビリテーション技術を習得し、実践することができる。									
【学習内容】									
アスレティックトレーナーとして高校、大学、プロスポーツ、病院など様々なフィールドでの経験を持つ教員が担当し、スポーツ種目とそれに特有な動作について理解し、スポーツごとに発生しやすい外傷、障害の発症機序と病態を学ぶ。さらに、慢性障害や術後リハビリテーション、競技復帰後の再発予防のためのコンディショニングについて学習する。授業は前半が講義中心、後半が実技中心となる。またケーススタディーとしてグループワークも取り入れ進行する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑦					予めテキストを読み予習してくること。 授業後はグループにて実技の復習をすることが望ましい。				
コマ	授業計画	コマ	授業計画						
1・2	【授業単元】 概論 姿勢評価  【到達目標】 競技特性や個人特性を踏まえたアスレティックリハビリテーションを理解する。 姿勢評価とそのバイオメカニクスを理解する。グループで姿勢評価が行えるようになる	17・18	【授業単元】 格闘技のアスレティックリハビリテーション 体操競技のアスレティックリハビリテーション  【到達目標】 競技特性を踏まえた外傷障害の発生機序を理解する 復帰のための到達目標を理解する リハビリテーションプログラム作成の要点を理解する						
3・4	【授業単元】 動作分析 走り動作のバイオメカニクス  【到達目標】 競技特性を踏まえた外傷障害の発生機序を理解する 復帰のための到達目標を理解する リハビリテーションプログラム作成の要点を理解する	19・20	【授業単元】 ケーススタディー：陸上・水泳・野球  【到達目標】 競技特性を踏まえたりハビリテーションプログラムを作成する 復帰のための到達目標を設定する リハビリテーションプログラムの適切な指導を実践する						
5・6	【授業単元】 ストップ・方向転換動作のバイオメカニクス 投げ動作のバイオメカニクス  【到達目標】 競技特性を踏まえた外傷障害の発生機序を理解する 復帰のための到達目標を理解する リハビリテーションプログラム作成の要点を理解する	21・22	【授業単元】 ケーススタディー：サッカー・バスケ  【到達目標】 競技特性を踏まえたりハビリテーションプログラムを作成する 復帰のための到達目標を設定する リハビリテーションプログラムの適切な指導を実践する						
7・8	【授業単元】 あたり動作のバイオメカニクス ジャンプ動作のバイオメカニクス  【到達目標】 競技特性を踏まえた外傷障害の発生機序を理解する 復帰のための到達目標を理解する リハビリテーションプログラム作成の要点を理解する	23・24	【授業単元】 ケーススタディー：ラグビー・スキー・スケート  【到達目標】 競技特性を踏まえたりハビリテーションプログラムを作成する 復帰のための到達目標を設定する リハビリテーションプログラムの適切な指導を実践する						
9・10	【授業単元】 陸上競技のアスレティックリハビリテーション 水泳のアスレティックリハビリテーション  【到達目標】 競技特性を踏まえた外傷障害の発生機序を理解する 復帰のための到達目標を理解する リハビリテーションプログラム作成の要点を理解する	25・26	【授業単元】 ケーススタディー：ハンドボール・バレーボール  【到達目標】 競技特性を踏まえたりハビリテーションプログラムを作成する 復帰のための到達目標を設定する リハビリテーションプログラムの適切な指導を実践する						
11・12	【授業単元】 サッカーのアスレティックリハビリテーション バスケットボールのアスレティックリハビリテーション  【到達目標】 競技特性を踏まえた外傷障害の発生機序を理解する 復帰のための到達目標を理解する リハビリテーションプログラム作成の要点を理解する	27・28	【授業単元】 ケーススタディー：格闘技・体操  【到達目標】 競技特性を踏まえたりハブプログラムを作成する 復帰のための到達目標を設定する リハビリテーションプログラムの適切な指導を実践する						
13・14	【授業単元】 ラグビーのアスレティックリハビリテーション スキー・スケートのアスレティックリハビリテーション  【到達目標】 競技特性を踏まえた外傷障害の発生機序を理解する 復帰のための到達目標を理解する リハビリテーションプログラム作成の要点を理解する	29・30	【授業単元】 定期試験  【到達目標】 知識と技術の定着度を確認する						
15・16	【授業単元】 バレーボールのアスレティックリハビリテーション ハンドボールのアスレティックリハビリテーション  【到達目標】 競技特性を踏まえた外傷障害の発生機序を理解する 復帰のための到達目標を理解する リハビリテーションプログラム作成の要点を理解する		【成績評価の方法と基準】  講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、授業評価(平素の学習状況・出席状況など)を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。  試験は筆記試験で行う。						
【履修に当たっての心構え・留意点】									
特になし									

## 授業概要

科目名	スポーツと栄養	必修選択の別	選択	開講区分	前期	担当教員	白井 奈央										
サブ科目名	AT専門科目	学年	2年	授業形態	演習	総単位数	2 単位	総時間数	30 時間								
学科・専攻	アスレティックメディカルトレーナー科																
【授業を通じての到達目標】																	
アスレティックトレーナーとして選手・チーム・クライアントに対してニーズに合わせた栄養サポートが出来るようになる。 アスレティックトレーナー試験のスポーツと栄養について、理解を深めて合格水準まで到達できるようになる。																	
【学習内容】(実務経験のある教員については、どのような実務経験のある教員がどのような授業を実施するのかも記載する)																	
アスレティックトレーナー・管理栄養士としてスポーツチーム(育成年代～社会人まで)やスポーツクラブ、健康増進機関において栄養教育・栄養指導に携わってきた教員が、現場での情報を交えながら栄養教育・指導の実際について授業を行う。またAT理論試験対策授業(栄養分野)も兼ねた授業とする。																	
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】												
日本スポーツ協会公認AT専門科目テキスト⑨「スポーツと栄養」 リファレンスブック					授業後は範囲について復習を行い、理解を深めた上で次回受講することが望ましい。 また、資格試験の勉強にも繋げてほしい。												
コマ	授業計画	コマ	授業計画														
1	【授業単元】 アスリートの身体組成について  【到達目標】 アスリートの身体組成と測定方法を知り、目的別指導に活かせるようにする。	9	【授業単元】 栄養欠陥に基づく疾病と対策について②  【到達目標】 鉄欠乏性貧血について原因・症状・アセメント・対策と食事を理解し、アスリートに対して指導・管理することが出来る。														
	【授業単元】 アスリートのからだ作りについて  【到達目標】 アスリートのからだが作られる仕組み(筋肉、骨)を知り、目的別指導に活かせるようにする。		【授業単元】 栄養欠陥に基づく疾病と対策について③  【到達目標】 月経障害・骨障害について原因・症状・アセメント・対策と食事を理解し、アスリートに対して指導・管理することが出来る。														
3	【授業単元】 ウエイトコントロールについて  【到達目標】 アスリートの増量について栄養素の過剰摂取を考慮した上で、正しく指導・管理をすることが出来る。減量について栄養欠陥を考慮した上で、正しく指導・管理をすることが出来る。	11	【授業単元】 栄養欠陥に基づく疾病と対策について④  【到達目標】 摂食障害について原因・症状・アセメント・対策と食事を理解し、アスリートに対して指導・管理することが出来る。														
	【授業単元】 アスリートの競技特性と食事計画、アスリートのエネルギー消費量について  【到達目標】 競技特性の分類と食事や食事計画、アスリートのエネルギー消費量(＝必要量)の求め方を知り、目的別指導に活かせるようになる。		【授業単元】 期分けによる食事について  【到達目標】 試合前、試合当日、試合後、遠征・合宿時の食事について正しく指導・管理することが出来る。														
5	【授業単元】 グリコーゲン補給と回復のための食事  【到達目標】 アスリートのグリコーゲン補給と回復のための食事について指導することが出来る。	13	【授業単元】 サプリメントと栄養エルゴジェニックについて  【到達目標】 サプリメントの使用方法や健康被害・ドーピングとの関係を理解し、正しく指導・管理することが出来る。														
	【授業単元】 コンディショニングと栄養について①  【到達目標】 コンディショニングと栄養の関係、ビタミン欠乏について指導することが出来る。(ビタミン補給の観点から)		【授業単元】 アスリートのスポーツ栄養マネジメント、授業振り返り  【到達目標】 授業を振り返り、アスリートに対してスポーツ栄養アセメント、スポーツ栄養マネジメントをする方法を知り、栄養教育・指導に活かせるようになる。														
7	【授業単元】 振り返り、コンディショニングと栄養について②  【到達目標】 中間確認テストを行い、前半の重要な事項を再確認する。コンディショニングと栄養の関係について指導することができる。(水分補給の観点から)	15	【授業単元】 定期試験、授業・試験振り返り  【到達目標】 試験をすることで苦手分野について課題を抽出し、アスレティックトレーナー試験までの勉強に繋げる。														
	【授業単元】 栄養欠陥に基づく疾病と対策について①  【到達目標】 エネルギー不足、たんぱく質不足、栄養素の過剰摂取について原因・症状・アセメント・対策と食事を理解し、アスリートに対して指導・管理することが出来る。		【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、授業評価(平素の学習状況・出席状況など)を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。中間確認テスト、定期試験はアスレティックトレーナー本試験に準じた筆記試験で行う。 【定期試験 60点】 【授業点 40点】 ●出席…15点 ●小テスト…10点 ●中間確認テスト…7回目に実施、15点満点(追・再試は行わない)														
【履修に当たっての心構え・留意点】																	
現場に栄養スタッフがいなくてもトレーナーとして栄養・食事について何ができるか考えながら学び、実際の指導に繋げてほしい。																	

## 授業概要

## 【授業を通じての到達目標】

アスレティックトレーナーとしての最低限のスポーツ医学の教養と知識を学び、疾患に応じた対策を立案できるレベルまで理解する。疾患の特徴などを説明できるまで理解を深めていく。

【学習内容】(実務経験のある教員については、どのような実務経験のある教員がどのような授業を実施するのかも記載する)

アスレティックトレーナーとして持つべき健康管理とスポーツ医学に関連した内容を取り扱う。解剖学、生理学など、人体の正常な構造と機能の理解が基本となるため、事前に十分に理解した上で講義に出席し、学んでほしい。

【使用教科書・教材・参考図書】 アスレティックトレーナー専門科目テキスト ④ 健康管理とスポーツ医学		【授業時間外における学習】 小テストの復習	
コマ	授業計画	コマ	授業計画
1	<p>【授業単元】 アスリートにみられる内臓器官などの疾患:循環器系疾患、呼吸器系疾患</p> <p>【到達目標】 循環器系疾患、呼吸器系疾患について理解し説明できる</p>	9	<p>【授業単元】 中間テスト</p> <p>【到達目標】 AT教本④「健康管理とスポーツ医学」の中間テストにおいて8割以上得点する</p>
2	<p>【授業単元】 アスリートにみられる内臓器官などの疾患:消化器系疾患、血液疾患</p> <p>【到達目標】 消化器系疾患、血液疾患について理解し説明できる</p>	10	<p>【授業単元】 中間テスト振り返り</p> <p>【到達目標】 中間テストの振り返りをし、間違えた箇所・理解できなかつた箇所を理解するため再度学習する</p>
3	<p>【授業単元】 アスリートにみられる内臓器官などの疾患:腎・泌尿器疾患</p> <p>【到達目標】 腎・泌尿器疾患について理解し説明できる</p>	11	<p>【授業単元】 アスリートにみられる病的現象など:オーバートレーニング症候群</p> <p>【到達目標】 オーバートレーニング症候群について理解し説明できる</p>
4	<p>【授業単元】 アスリートにみられる内臓器官などの疾患:代謝性疾患、皮膚疾患</p> <p>【到達目標】 代謝性疾患、皮膚疾患について理解し説明できる</p>	12	<p>【授業単元】 アスリートにみられる病的現象など:突然死、過換気症候群</p> <p>【到達目標】 突然死、過換気症候群について理解し説明できる</p>
5	<p>【授業単元】 感染症に対する対応策:呼吸器感染症</p> <p>【到達目標】 呼吸器感染症について理解し説明できる</p>	13	<p>【授業単元】 アスリートにみられる病的現象など:摂食障害、減量による障害</p> <p>【到達目標】 摂食障害、減量による障害について理解し説明できる</p>
6	<p>【授業単元】 感染症に対する対応策:血液感染症、皮膚感染症</p> <p>【到達目標】 血液感染症、皮膚感染症について理解し説明できる</p>	14	<p>【授業単元】 アスリートにみられる病的現象など:喫煙・飲酒の問題点</p> <p>【到達目標】 喫煙・飲酒の問題点について理解し説明できる</p>
7	<p>【授業単元】 感染症に対する対応策:ウイルス性結膜炎、海外遠征時に注意すべき感染症</p> <p>【到達目標】 ウイルス性結膜炎、海外遠征時に注意すべき感染症について理解し説明できる</p>	15	<p>【授業単元】 特殊環境のスポーツ医学:高所および低酸素環境下での身体への影響</p> <p>【到達目標】 高所および低酸素環境下での身体への影響について理解し説明できる</p>
8	<p>【授業単元】 感染症に対する対応策:各競技別ルールにみられる感染症対策</p> <p>【到達目標】 各競技別ルールにみられる感染症対策について理解し説明できる</p>		<p>【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期試験を60点、授業評価(平素の学習状況・出席状況など)を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。</p> <p>試験は筆記試験で行う。</p>
【履修に当たっての心構え・留意点】			
特になし			

## 授業概要

科目名	健康管理とスポーツ医学	必修選択の別	選択	開講区分	通年(前期)	担当教員	伊藤 彰							
サブ科目名		学年	2年	授業形態	講義	総単位数	3 単位	総時間数	45 時間					
学科・専攻	アスレティックメディカルトレーナー科													
【授業を通じての到達目標】														
アスレティックトレーナーとしての最低限のスポーツ医学の教養と知識を学び、疾患に応じた対策を立案できるレベルまで理解する。 疾患の特徴などを説明できるまで理解を深めていく。														
【学習内容】(実務経験のある教員については、どのような実務経験のある教員がどのような授業を実施するのかも記載する)														
アスレティックトレーナーとして持つべき健康管理とスポーツ医学に関連した内容を取り扱う。解剖学、生理学など、人体の正常な構造と機能の理解が基本となるため、事前に十分に理解した上で講義に出席し、学んでほしい。														
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】									
アスレティックトレーナー専門科目テキスト ④ 健康管理とスポーツ医学					小テストの復習									
コマ	授業計画	コマ	授業計画											
16	【授業単元】 特殊環境のスポーツ医学:高圧環境、暑熱環境  【到達目標】 高圧環境、暑熱環境について理解し説明できる	24	【授業単元】 定期試験の振り返り  【到達目標】 定期試験の振り返りをし、間違えた箇所・理解できなかった箇所を理解するため再度学習する											
17	【授業単元】 特殊環境のスポーツ医学:低温環境、時差  【到達目標】 低温環境、時差について理解し説明できる													
18	【授業単元】 特殊環境のスポーツ医学:海外遠征時の諸問題  【到達目標】 海外遠征時の諸問題について理解し説明できる													
19	【授業単元】 年齢・性別による特徴:女性のスポーツ医学  【到達目標】 女性のスポーツ医学について理解し説明できる													
20	【授業単元】 年齢・性別による特徴:成長期のスポーツ医学、高齢者のスポーツ医学  【到達目標】 成長期のスポーツ医学、高齢者のスポーツ医学について理解し説明できる													
21	【授業単元】 内科的メディカルチェック  【到達目標】 内科的メディカルチェックについて理解し説明できる													
22	【授業単元】 ドーピングコントロール  【到達目標】 ドーピングコントロールについて理解し説明できる													
23	【授業単元】 定期試験  【到達目標】 AT教本④「健康管理とスポーツ医学」試験において8割以上得点する			【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期試験を60点、授業評価(平素の学習状況・出席状況など)を40点の配点とし、両者の合計点でA~Fの6段階で評価する。 試験は筆記試験で行う。										
【履修に当たっての心構え・留意点】														
特になし														

## 授業概要

科目名	検査・測定と評価	必修選択の別	選択	開講区分	不定期	担当教員	荒谷幸次			
サブ科目名		学年	2年	授業形態	演習	総単位数	4 単位	総時間数	60 時間	
【授業を通じての到達目標】										
<ul style="list-style-type: none"> <li>・アスレティックトレーナーに必要な検査・測定・評価を理解し、説明できる。</li> <li>・具体的に各種検査・測定が実践できる。</li> </ul>										
【学習内容】										
国立スポーツ科学センターや、ナショナルチームで活動経験がある教員が、アスレティックトレーナーに必要な検査・測定と評価の理論や基本的なスポーツ動作のバイオメカニクスと評価する視点について、座学と実技を交えて授業を行う。										
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・公認アスレティックトレーナー専門科目教本7 アスレティックリハビリテーション</li> <li>・スポーツ外傷・障害の理学診断 理学療法ガイド(文光堂)</li> <li>・適切な判断を導くための整形外科徒手検査法(メディカルビュー)</li> </ul>					授業時間外の予習等について、必要な場合は、その都度授業で案内する。					
コマ	授業計画	コマ	授業計画							
1・2	【授業単元】 ガイダンス・アスレティックトレーナーに必要な評価	17・18	【授業単元】 徒手筋力検査（下肢）	【到達目標】 徒手筋力検査の目的・意義について理解する。 徒手筋力検査が実践できる。						
	【到達目標】 アスレティックトレーナーに必要な評価の目的、意義、役割を理解する。									
3・4	【授業単元】 姿勢・身体アライメント評価	19・20	【授業単元】 筋力・筋パワー・筋持久力・全身持久力 敏捷性・協調性	【到達目標】 筋力・筋パワー・筋持久力・全身持久力について理解する。 敏捷性・協調性の検査測定の目的と意義を理解する。 各種検査測定法について実践できる。						
	【到達目標】 姿勢・身体アライメントについて理解する。 姿勢・身体アライメントを観察し、評価できる。									
5・6	【授業単元】 形態測定（四肢長）	21・22	【授業単元】 身体組成 一般的な体力測定	【到達目標】 身体組成検査測定の目的と意義を理解する。 一般的な体力測定の目的と意義を理解する。 各種測定法について実践できる。						
	【到達目標】 形態測定の目的と意義を理解する。 四肢長が測定できる。									
7・8	【授業単元】 形態測定（周径）	23・24	【授業単元】 触診技術	【到達目標】 触診の目的と意義について理解する。 筋、韌帯を触診できる。						
	【到達目標】 形態測定の目的と意義を理解する。 周径が測定できる。									
9・10	【授業単元】 関節可動域測定（上肢・体幹）	25・26	【授業単元】 Special test 1	【到達目標】 Special testの目的と意義について理解する。 Special testが実践できる。						
	【到達目標】 関節可動域測定の目的と意義を理解する。 関節可動域測定が実践できる。									
11・12	【授業単元】 関節可動域測定（下肢）	27・28	【授業単元】 Special test 2	【到達目標】 Special testの目的と意義について理解する。 Special testが実践できる。						
	【到達目標】 関節可動域測定の目的と意義を理解する。 関節可動域測定が実践できる。									
13・14	【授業単元】 関節弛緩性・筋タイトネス	29・30	【授業単元】 科目試験	【到達目標】 試験解説、授業内容を振り返る。						
	【到達目標】 関節弛緩性・筋タイトネスについて理解する。 関節弛緩性検査・筋タイトネス検査が実践できる。									
15・16	【授業単元】 徒手筋力検査（上肢）		【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、授業評価(平素の学習状況・出席状況など)を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 試験は筆記試験、実技試験で行う。							
	【到達目標】 徒手筋力検査の目的・意義について理解する。 徒手筋力検査が実践できる。									
【履修に当たっての心構え・留意点】										
実技を交えて行うので、動きやすい服装で受講すること。										

## 授業概要

## 授業概要

科目名	アスレティックトレーナー資格対策	必修選択の別	選択	開講区分	不定期	担当教員	石郷岡 旭 安澤 佳樹		
サブ科目名		学年	2年	授業形態	演習	総単位数	16 単位	総時間数	240 時間
コマ	授業計画					コマ	授業計画		
16	【授業単元】 5巻「検査・測定と評価」の教本の記載内容を学ぶ  【到達目標】 授業範囲の内容について、教本をもとに問題の解説を作成する。					26	【授業単元】 4・5・6・7巻の試験  【到達目標】 授業範囲の問題で70%以上の正答率を獲得する		
17	【授業単元】 5巻「検査・測定と評価」の試験  【到達目標】 授業範囲の問題で70%以上の正答率を獲得する					27	【授業単元】 実技試験のオリエンテーション  【到達目標】 実技試験の判定基準等、概要について理解する。		
18	【授業単元】 5巻「検査・測定と評価」の復習  【到達目標】 授業範囲の内容について、授業内で発表し、正確に伝えることができる					28	【授業単元】 実技試験「カテゴリーI（応急処置）」に必要な知識と技術を学ぶ  【到達目標】 実技試験に必要な知識と技術について、教科書の内容を確認して、試験の流れを作成し、モデル役とアスレティックトレーナー役に分かれて必要な技術を習得する。		
19	【授業単元】 6巻「予防とコンディショニング」の教本の記載内容を学ぶ  【到達目標】 授業範囲の内容について、教本をもとに問題の解説を作成する。					29	【授業単元】 8巻「救急処置」の教本の記載内容を学ぶ  【到達目標】 授業範囲の内容について、教本をもとに問題の解説を作成する。		
20	【授業単元】 6巻「予防とコンディショニング」の試験  【到達目標】 授業範囲の問題で70%以上の正答率を獲得する					30	【授業単元】 8巻「救急処置」の試験  【到達目標】 授業範囲の問題で70%以上の正答率を獲得する		
21	【授業単元】 6巻「予防とコンディショニング」の復習  【到達目標】 授業範囲の内容について、授業内で発表し、正確に伝えることができる					31	【授業単元】 8巻「救急処置」の復習  【到達目標】 授業範囲の内容について、授業内で発表し、正確に伝えることができる		
22	【授業単元】 7巻「アスレティックリハビリテーション」の教本の記載内容を学ぶ  【到達目標】 授業範囲の内容について、教本をもとに問題の解説を作成する。					32	【授業単元】 1・2・9巻の教本の記載内容の復習  【到達目標】 これまで行ってきた授業範囲の内容について、再度教本をもとに復習する。		
23	【授業単元】 7巻「アスレティックリハビリテーション」の試験  【到達目標】 授業範囲の問題で70%以上の正答率を獲得する					33	【授業単元】 実技試験「カテゴリーI（応急処置）」に必要な知識と技術を学ぶ  【到達目標】 実技試験に必要な知識と技術について、教科書の内容を確認して、試験の流れを作成する。		
24	【授業単元】 7巻「アスレティックリハビリテーション」の復習  【到達目標】 授業範囲の内容について、授業内で発表し、正確に伝えることができる					34	【授業単元】 実技試験「カテゴリーI（応急処置）」に必要な知識と技術を学ぶ  【到達目標】 実技試験に必要な知識と技術について、教科書の内容を確認して、試験の流れを作成し、モデル役とアスレティックトレーナー役に分かれて必要な技術を習得する。		
25	【授業単元】 4・5・6・7巻の教本の記載内容の復習  【到達目標】 これまで行ってきた授業範囲の内容について、再度教本をもとに復習する。					35	【授業単元】 1・2・9巻の試験  【到達目標】 授業範囲の問題で70%以上の正答率を獲得する		

## 授業概要

科目名	アスレティックトレーナー資格対策	必修選択の別	選択	開講区分	不定期	担当教員	石郷岡 旭 安澤 佳樹						
サブ科目名		学年	2年	授業形態	演習	総単位数	16 単位	総時間数	240 時間				
学科・専攻	アスレティックメディカルトレーナー科												
コマ	授業計画					コマ	授業計画						
36	<p>[授業単元] 1・2・9巻の復習</p> <p>【到達目標】 授業範囲の内容について、授業内で発表し、正確に伝えることができる</p>					46	<p>[授業単元] 1・2・3・4・9巻教本の記載内容を学ぶ</p> <p>【到達目標】 授業範囲の内容について、教本をもとに問題の解説を作成する。</p>						
37	<p>[授業単元] 3・4巻教本の記載内容を学ぶ</p> <p>【到達目標】 授業範囲の内容について、教本をもとに問題の解説を作成する。</p>					47	<p>[授業単元] 1・2・3・4・9巻の試験</p> <p>【到達目標】 授業範囲の問題で70%以上の正答率を獲得する</p>						
38	<p>[授業単元] 3・4巻の試験</p> <p>【到達目標】 授業範囲の問題で70%以上の正答率を獲得する</p>					48	<p>[授業単元] 1・2・3・4・9巻の復習</p> <p>【到達目標】 授業範囲の内容について、授業内で発表し、正確に伝えることができる</p>						
39	<p>[授業単元] 3・4巻の復習</p> <p>【到達目標】 授業範囲の内容について、授業内で発表し、正確に伝えることができる</p>					49	<p>[授業単元] 5・6・7・8巻教本の記載内容を学ぶ</p> <p>【到達目標】 授業範囲の内容について、教本をもとに問題の解説を作成する。</p>						
40	<p>[授業単元] 5・6巻教本の記載内容を学ぶ</p> <p>【到達目標】 授業範囲の内容について、教本をもとに問題の解説を作成する。</p>					50	<p>[授業単元] 5・6・7・8巻の試験</p> <p>【到達目標】 授業範囲の問題で70%以上の正答率を獲得する</p>						
41	<p>[授業単元] 5・6巻の試験</p> <p>【到達目標】 授業範囲の問題で70%以上の正答率を獲得する</p>					51	<p>[授業単元] 5・6・7・8巻の復習</p> <p>【到達目標】 授業範囲の内容について、授業内で発表し、正確に伝えることができる</p>						
42	<p>[授業単元] 5・6巻の復習</p> <p>【到達目標】 授業範囲の内容について、授業内で発表し、正確に伝えることができる</p>					52	<p>[授業単元] 前期のまとめ</p> <p>【到達目標】 前期の内容をまとめ、夏休み期間、後期に向けて取り組むべきことについて理解する</p>						
43	<p>[授業単元] 7・8巻教本の記載内容を学ぶ</p> <p>【到達目標】 授業範囲の内容について、教本をもとに問題の解説を作成する。</p>					53	<p>[授業単元] 1・2・9巻教本の記載内容を学ぶ</p> <p>【到達目標】 授業範囲の内容について、教本をもとに問題の解説を作成する。</p>						
44	<p>[授業単元] 7・8巻の試験</p> <p>【到達目標】 授業範囲の問題で70%以上の正答率を獲得する</p>					54	<p>[授業単元] 1・2・9巻の試験</p> <p>【到達目標】 授業範囲の問題で70%以上の正答率を獲得する</p>						
45	<p>[授業単元] 7・8巻の復習</p> <p>【到達目標】 授業範囲の内容について、授業内で発表し、正確に伝えることができる</p>					55	<p>[授業単元] 1・2・9巻の復習</p> <p>【到達目標】 授業範囲の内容について、授業内で発表し、正確に伝えることができる</p>						

**授業概要**

科目名	アスレティックトレーナー資格対策	必修選択の別	選択	開講区分	不定期	担当教員	石郷岡 旭 安澤 佳樹						
サブ科目名		学年	2年	授業形態	演習	総単位数	16 単位	総時間数	240 時間				
学科・専攻	アスレティックメディカルトレーナー科												
コマ	授業計画					コマ	授業計画						
56	【授業単元】 3・4巻教本の記載内容を学ぶ  【到達目標】 授業範囲の内容について、教本をもとに問題の解説を作成する。					67	【授業単元】 1・2・3・4・9巻の復習  【到達目標】 授業範囲の内容について、授業内で発表し、正確に伝えることができる						
57	【授業単元】 3・4巻の試験  【到達目標】 授業範囲の問題で70%以上の正答率を獲得する					68	【授業単元】 5・6・7・8巻教本の記載内容を学ぶ  【到達目標】 授業範囲の内容について、教本をもとに問題の解説を作成する。						
58	【授業単元】 3・4巻の復習  【到達目標】 授業範囲の内容について、授業内で発表し、正確に伝えることができる					69	【授業単元】 5・6・7・8巻の試験  【到達目標】 授業範囲の問題で70%以上の正答率を獲得する						
59	【授業単元】 5・6巻教本の記載内容を学ぶ  【到達目標】 授業範囲の内容について、教本をもとに問題の解説を作成する。					70	【授業単元】 5・6・7・8巻の復習  【到達目標】 授業範囲の内容について、授業内で発表し、正確に伝えることができる						
60	【授業単元】 5・6巻の試験  【到達目標】 授業範囲の問題で70%以上の正答率を獲得する					71	【授業単元】 全巻の試験(過去問)  【到達目標】 授業範囲の問題で70%以上の正答率を獲得する						
61	【授業単元】 5・6巻の復習  【到達目標】 授業範囲の内容について、授業内で発表し、正確に伝えることができる					72	【授業単元】 全巻の試験(過去問)  【到達目標】 授業範囲の問題で70%以上の正答率を獲得する						
62	【授業単元】 7・8巻教本の記載内容を学ぶ  【到達目標】 授業範囲の内容について、教本をもとに問題の解説を作成する。					73	【授業単元】 全巻の試験(過去問)  【到達目標】 授業範囲の問題で70%以上の正答率を獲得する						
63	【授業単元】 7・8巻の試験  【到達目標】 授業範囲の問題で70%以上の正答率を獲得する					74	【授業単元】 全巻の試験(過去問)  【到達目標】 授業範囲の問題で70%以上の正答率を獲得する						
64	【授業単元】 7・8巻の復習  【到達目標】 授業範囲の内容について、授業内で発表し、正確に伝えることができる					75	【授業単元】 正答率が低かった問題の確認  【到達目標】 正答率が低かった問題を全体で共有し理解する						
65	【授業単元】 1・2・3・4・9巻教本の記載内容を学ぶ  【到達目標】 授業範囲の内容について、教本をもとに問題の解説を作成する。					76	【授業単元】 正答率が低かった問題の確認  【到達目標】 正答率が低かった問題を全体で共有し理解する						
66	【授業単元】 1・2・3・4・9巻の試験  【到達目標】 授業範囲の問題で70%以上の正答率を獲得する					77	【授業単元】 全巻の試験(過去問)  【到達目標】 授業範囲の問題で70%以上の正答率を獲得する						

**授業概要**

科目名	アスレティックトレーナー資格対策	必修選択の別	選択	開講区分	不定期	担当教員	石郷岡 旭 安澤 佳樹					
サブ科目名		学年	2年	授業形態	演習	総単位数	16 単位	総時間数	240 時間			
学科・専攻	アスレティックメディカルトレーナー科											
コマ	授業計画			コマ	授業計画							
78	【授業単元】 全巻の試験(過去問)  【到達目標】 授業範囲の問題で70%以上の正答率を獲得する			89	【授業単元】 実技試験「カテゴリーⅢ(テーピング)」に必要な知識と技術を学ぶ  【到達目標】 実技試験に必要な知識と技術について、教科書の内容を確認して、試験の流れを作成する。							
79	【授業単元】 全巻の試験(過去問)  【到達目標】 授業範囲の問題で70%以上の正答率を獲得する			90	【授業単元】 実技試験「カテゴリーⅢ(テーピング)」に必要な技術を練習する  【到達目標】 授業の中で、モデル役とアスレティックトレーナー役に分かれて必要な技術を習得する。							
80	【授業単元】 全巻の試験(過去問)  【到達目標】 授業範囲の問題で70%以上の正答率を獲得する			91	【授業単元】 実技試験「カテゴリーⅠ(応急処置)」に必要な知識と技術を学ぶ  【到達目標】 実技試験に必要な知識と技術について、教科書の内容を確認して、試験の流れを作成する。							
81	【授業単元】 正答率が低かった問題の確認  【到達目標】 正答率が低かった問題を全体で共有し理解する			92	【授業単元】 実技試験「カテゴリーⅠ(応急処置)」に必要な技術を練習する  【到達目標】 授業の中で、モデル役とアスレティックトレーナー役に分かれて必要な技術を習得する。							
82	【授業単元】 正答率が低かった問題の確認  【到達目標】 正答率が低かった問題を全体で共有し理解する			93	【授業単元】 実技試験「カテゴリーⅠ(応急処置)」に必要な知識と技術を学ぶ  【到達目標】 実技試験に必要な知識と技術について、教科書の内容を確認して、試験の流れを作成する。							
83	【授業単元】 これまでの試験問題等の確認  【到達目標】 これまで行ってきた全巻における試験問題について再復習し、理解できていない問題について再確認する			94	【授業単元】 実技試験「カテゴリーⅠ(応急処置)」に必要な技術を練習する  【到達目標】 授業の中で、モデル役とアスレティックトレーナー役に分かれて必要な技術を習得する。							
84	【授業単元】 これまでの試験問題等の確認  【到達目標】 これまで行ってきた全巻における試験問題について再復習し、理解できていない問題について再確認する			95	【授業単元】 実技試験「カテゴリーⅠ(応急処置)」に必要な知識と技術を学ぶ  【到達目標】 実技試験に必要な知識と技術について、教科書の内容を確認して、試験の流れを作成する。							
85	【授業単元】 これまでの試験問題等の確認  【到達目標】 これまで行ってきた全巻における試験問題について再復習し、理解できていない問題について再確認する			96	【授業単元】 実技試験「カテゴリーⅠ(応急処置)」に必要な技術を練習する  【到達目標】 授業の中で、モデル役とアスレティックトレーナー役に分かれて必要な技術を習得する。							
86	【授業単元】 これまでの試験問題等の確認  【到達目標】 これまで行ってきた全巻における試験問題について再復習し、理解できていない問題について再確認する			97	【授業単元】 実技試験「カテゴリーⅡ(アスレティックリハビリテーション)」に必要な知識と技術を学ぶ  【到達目標】 実技試験に必要な知識と技術について、教科書の内容を確認して、試験の流れを作成する。							
87	【授業単元】 実技試験「カテゴリーⅡ(アスレティックリハビリテーション)」に必要な知識と技術を学ぶ  【到達目標】 実技試験に必要な知識と技術について、教科書の内容を確認して、試験の流れを作成する。			98	【授業単元】 実技試験「カテゴリーⅡ(アスレティックリハビリテーション)」の試験  【到達目標】 モデル役と受験生役に分かれて実技試験を実施する。合格基準に到達する。							
88	【授業単元】 実技試験「カテゴリーⅡ(アスレティックリハビリテーション)」の試験  【到達目標】 モデル役と受験生役に分かれて実技試験を実施する。合格基準に到達する。			99	【授業単元】 実技試験「カテゴリーⅡ(アスレティックリハビリテーション)」に必要な知識と技術を学ぶ  【到達目標】 実技試験に必要な知識と技術について、教科書の内容を確認して、試験の流れを作成する。							

**授業概要**

科目名	アスレティックトレーナー資格対策	必修選択の別	選択	開講区分	不定期	担当教員	石郷岡 旭 安澤 佳樹						
サブ科目名		学年	2年	授業形態	演習	総単位数	16 単位	総時間数	240 時間				
学科・専攻	アスレティックメディカルトレーナー科												
コマ	授業計画					コマ	授業計画						
100	【授業単元】 実技試験「カテゴリーⅡ（アスレティックリハビリテーション）」の試験  【到達目標】 モデル役と受験生役に分かれて実技試験を実施する。合格基準に到達する。					111	【授業単元】 実技試験「カテゴリーⅡ（アスレティックリハビリテーション）」に必要な知識と技術を学ぶ  【到達目標】 実技試験に必要な知識と技術について、教科書の内容を確認して、試験の流れを作成する。						
101	【授業単元】 実技試験「カテゴリーⅡ（アスレティックリハビリテーション）」に必要な知識と技術を学ぶ  【到達目標】 実技試験に必要な知識と技術について、教科書の内容を確認して、試験の流れを作成する。					112	【授業単元】 実技試験「カテゴリーⅡ（アスレティックリハビリテーション）」の試験  【到達目標】 モデル役と受験生役に分かれて実技試験を実施する。合格基準に到達する。						
102	【授業単元】 実技試験「カテゴリーⅡ（アスレティックリハビリテーション）」の試験  【到達目標】 モデル役と受験生役に分かれて実技試験を実施する。合格基準に到達する。					113	【授業単元】 実技試験「カテゴリーⅢ（テーピング）」に必要な知識と技術を学ぶ  【到達目標】 実技試験に必要な知識と技術について、教科書の内容を確認して、試験の流れを作成する。						
103	【授業単元】 実技試験「カテゴリーⅢ（テーピング）」に必要な知識と技術を学ぶ  【到達目標】 実技試験に必要な知識と技術について、教科書の内容を確認して、試験の流れを作成する。					114	【授業単元】 実技試験「カテゴリーⅢ（テーピング）」に必要な技術を練習する  【到達目標】 授業の中で、モデル役とアスレティックトレーナー役に分かれて必要な技術を習得する。						
104	【授業単元】 実技試験「カテゴリーⅢ（テーピング）」に必要な技術を練習する  【到達目標】 授業の中で、モデル役とアスレティックトレーナー役に分かれて必要な技術を習得する。					115	【授業単元】 実技試験「カテゴリーⅠ（応急処置）」に必要な知識と技術を学ぶ  【到達目標】 実技試験に必要な知識と技術について、教科書の内容を確認して、試験の流れを作成する。						
105	【授業単元】 実技試験「カテゴリーⅢ（テーピング）」に必要な知識と技術を学ぶ  【到達目標】 実技試験に必要な知識と技術について、教科書の内容を確認して、試験の流れを作成する。					116	【授業単元】 実技試験「カテゴリーⅠ（応急処置）」に必要な技術を練習する  【到達目標】 授業の中で、モデル役とアスレティックトレーナー役に分かれて必要な技術を習得する。						
106	【授業単元】 実技試験「カテゴリーⅢ（テーピング）」に必要な技術を練習する  【到達目標】 授業の中で、モデル役とアスレティックトレーナー役に分かれて必要な技術を習得する。					117	【授業単元】 実技試験「カテゴリーⅡ（アスレティックリハビリテーション）」に必要な知識と技術を学ぶ  【到達目標】 実技試験に必要な知識と技術について、教科書の内容を確認して、試験の流れを作成する。						
107	【授業単元】 実技試験「カテゴリーⅢ（テーピング）」に必要な知識と技術を学ぶ  【到達目標】 実技試験に必要な知識と技術について、教科書の内容を確認して、試験の流れを作成する。					118	【授業単元】 実技試験「カテゴリーⅡ（アスレティックリハビリテーション）」の試験  【到達目標】 モデル役と受験生役に分かれて実技試験を実施する。合格基準に到達する。						
108	【授業単元】 実技試験「カテゴリーⅢ（テーピング）」に必要な技術を練習する  【到達目標】 授業の中で、モデル役とアスレティックトレーナー役に分かれて必要な技術を習得する。					119	【授業単元】 実技試験「カテゴリーⅢ（テーピング）」に必要な知識と技術を学ぶ  【到達目標】 実技試験に必要な知識と技術について、教科書の内容を確認して、試験の流れを作成する。						
109	【授業単元】 実技試験「カテゴリーⅠ（応急処置）」に必要な知識と技術を学ぶ  【到達目標】 実技試験に必要な知識と技術について、教科書の内容を確認して、試験の流れを作成する。					120	【授業単元】 実技試験「カテゴリーⅢ（テーピング）」に必要な技術を練習する  【到達目標】 授業の中で、モデル役とアスレティックトレーナー役に分かれて必要な技術を習得する。						
110	【授業単元】 実技試験「カテゴリーⅠ（応急処置）」に必要な技術を練習する  【到達目標】 授業の中で、モデル役とアスレティックトレーナー役に分かれて必要な技術を習得する。												